

茨城県教育財団文化財調査報告第457集

下妻市

# 中居指遺跡

鬼怒川改修事業内地内  
埋蔵文化財調査報告書

令和4年3月

国土交通省関東地方整備局下館河川事務所  
公益財団法人茨城県教育財団

人情事理，一脉相承。

故其文，亦如其人。

其人也，不苟取舍，不苟进退。

其文也，不苟繁简，不苟深浅。

其人也，不苟急躁，不苟沉缓。

其文也，不苟粗鄙，不苟典雅。

其人也，不苟虚浮，不苟质实。

其文也，不苟空疏，不苟严密。

其人也，不苟偏狭，不苟宽厚。

其文也，不苟浅近，不苟深奥。





下妻市

なか い ざし  
**中居指遺跡**

鬼怒川改修事業内地内  
埋藏文化財調査報告書

令和4年3月

国土交通省関東地方整備局下館河川事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所による鬼怒川改修事業に伴って実施した、下妻市中居指遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代から古墳時代にかけての竪穴建物跡や土坑が確認でき、縄文時代中期から晩期と古墳時代中期の集落跡であることが分かりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局下館河川事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、下妻市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原宏一



## 例　　言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所の委託により、茨城県教育庁総務企画部文化課が令和元年度に緊急発掘調査を実施した、跡地茨城県下妻市大字中居指字町田 270 番地ほかに所在する中居指遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。  
調査 令和 2 年 3 月 9 日～ 3 月 17 日  
整理 令和 3 年 7 月 1 日～ 11 月 30 日
- 3 発掘調査は、茨城県教育庁総務企画部文化課が実施した。
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、首席調査員獅子内一成が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、石器・石製品の岩石の鑑定は、日立市郷土博物館特別専門員の田切美智雄氏にご指導いただいた。
- 6 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

## 凡　　例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 20,400 m, Y = + 9,200 mの交点を基準点（A 1a1）とした。なお、この原点は、世界測地系（測地成果2011）による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」のように呼称した。

2 実測図・遺構・遺物一覧で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SI - 壓穴建物跡 SK - 土坑

土層解説 ローム - ロームブロック 燃土 - 燃土ブロック 粘土 - 粘土ブロック

粘 - 粘性 締 - 締まり K - 捺乱

含有量 A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 ○' - 極めて

粘性・締まり A - 強い B - 普通 C - 弱い ○' - 極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

炉・火床面 窯部材・粘土範囲

●土器 ○土製品 □石器・石製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は( )を、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、遺構・遺物一覧、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(4) 遺物の取り上げについては、以下の通りに行っている。遺構をセクションラインで分割し、北方向から時計回りに1区・2区…と区分けをした。層位は、上層から1xを深さ15 cmとして、2x, 3x…の表記をしている。遺物一覧の出土位置は、「○区○x」と表記した。また、一括で取り上げたものについては「覆土中」と表記した。

6 壓穴建物跡の「主軸」は、炉・窯を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を欠番にしたものは以下のとおりである。

欠番 SK 3・4

# 目 次

序

例 言

凡 例

目 次

中居指遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 道構と遺物	11
1 縄文時代の道構と遺物	11
(1) 壘穴建物跡	11
(2) 土坑	25
2 古墳時代の道構と遺物	29
壘穴建物跡	29
3 時期不明の道構と遺物	31
(1) 壘穴建物跡	31
(2) 土坑	33
(3) 道構外出土遺物	33
第4節 総 括	40
写真図版	PL 1 ~ PL 6
抄 錄	

# 挿 図 目 次

第 1 図 中居指遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の 1 「下妻」).....	6
第 2 図 中居指遺跡調査区設定図 (下妻市都市計画図 2500 分の 1).....	8
第 3 図 中居指遺跡全図 (400 分の 1).....	9
第 4 図 基本土層図.....	10
第 5 図 第 3 号壘穴建物跡・出土遺物実測図.....	11
第 6 図 第 4 号壘穴建物跡、第 1・2 号土坑実測図.....	12
第 7 図 第 4 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (1).....	13
第 8 図 第 4 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (2).....	14
第 9 図 第 4 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (3).....	15
第 10 図 第 4 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (4).....	16
第 11 図 第 5 号壘穴建物跡、第 6 号土坑実測図.....	19
第 12 図 第 5 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (1).....	21
第 13 図 第 5 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (2).....	22
第 14 図 第 5 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (3).....	23
第 15 図 第 5 号壘穴建物跡出土遺物実測図 (4).....	24
第 16 図 第 6 号壘穴建物跡・出土遺物実測図.....	25
第 17 図 第 1 号土坑出土遺物実測図.....	26
第 18 図 第 2 号土坑出土遺物実測図.....	27
第 19 図 第 5 号土坑・出土遺物実測図.....	28
第 20 図 第 2 号壘穴建物跡・出土遺物実測図.....	30
第 21 図 第 2 号壘穴建物跡出土遺物実測図.....	31
第 22 図 第 1 号壘穴建物跡・出土遺物実測図.....	32
第 23 図 道構外出土遺物実測図 (1).....	34
第 24 図 道構外出土遺物実測図 (2).....	35
第 25 図 道構外出土遺物実測図 (3).....	36
第 26 図 道構外出土遺物実測図 (4).....	37

## 挿表目次

第1表 中居遺跡周辺道路一覧	7
第2表 第3号堅穴建物跡出土遺物一覧	11
第3表 第4号堅穴建物跡出土遺物一覧(1)	17
第4表 第4号堅穴建物跡出土遺物一覧(2)	18
第5表 第4号堅穴建物跡出土遺物一覧(3)	19
第6表 第5号堅穴建物跡 ピット深度	20
第7表 第5号堅穴建物跡出土遺物一覧	20
第8表 第6号堅穴建物跡 ピット深度	24
第9表 第6号堅穴建物跡出土遺物一覧	25
第10表 縄文時代堅穴建物跡一覧	25
第11表 第1号土坑出土遺物一覧(1)	26
第12表 第1号土坑出土遺物一覧(2)	27
第13表 第2号土坑出土遺物一覧(1)	27
第14表 第2号土坑出土遺物一覧(2)	28
第15表 第5号土坑出土遺物一覧	29
第16表 縄文時代土坑一覧	29
第17表 第2号堅穴建物跡出土遺物一覧	31
第18表 第1号堅穴建物跡出土遺物一覧	33
第19表 道構外出土遺物一覧(1)	33
第20表 道構外出土遺物一覧(2)	38
第21表 道構外出土遺物一覧(3)	39
第22表 道構・縄文土器分類別の出土量とその点数一覧	
	40

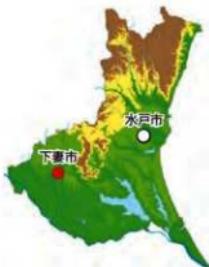
## 写真図版目次

PL 1	道構確認状況(北西から) テススピット 土層断面 第1号堅穴建物跡 炉 第2号堅穴建物跡 蕎 第2号堅穴建物跡 第3号堅穴建物跡 第4号堅穴建物跡 遺物出土状況(1) 第4号堅穴建物跡 遺物出土状況(2)	PL 3	第1・4・5号堅穴建物跡、第5号土坑出土土器
PL 2	第4号堅穴建物跡 遺物出土状況(3) 第4号堅穴建物跡 遺物出土状況(4) 第4号堅穴建物跡 第5号堅穴建物跡 遺物出土状況 第5号堅穴建物跡 第1号土坑 第5号土坑 遺物出土状況 埋没谷 堆積状況	PL 4	第3・4号堅穴建物跡出土土器
		PL 5	第6号堅穴建物跡、第1・2土坑、道構外出土土器 第4・5号堅穴建物跡出土土製品・石器・石製品
		PL 6	第2号堅穴建物跡出土土器、道構外出土石器・石製品

# なか い ざし 中居指遺跡の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

中居指遺跡は、下妻市の西部、鬼怒川左岸の標高20～25mの台地縁辺部に立地しています。鬼怒川改修事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育庁総務企画部文化課が令和元年度に1,312m<sup>2</sup>について緊急発掘調査を行いました。



## 調査の内容

今回の調査では、縄文時代の竪穴建物跡4棟、土坑3基、古墳時代の竪穴建物跡1棟、時期不明の竪穴建物跡1棟、土坑1基を確認しました。



中居指遺跡出土遺物

## 調査の成果

調査の結果、縄文時代中期から晩期、古墳時代中期の集落跡を確認しました。主な遺物は縄文時代のもので、竪穴建物跡からは、中期から晩期にかけての深鉢や浅鉢、台付鉢、注口土器、製塙土器、石皿、磨石のほか、土版、土偶、石剣、独鉛石などが出土しました。土製品および石製品は、祭祀などで用いられたものと想定され、当時の人々の生活の様子を窺い知る貴重な資料となりました。また、遺構の確認されている調査区中央部から北側にかけて、遺構の覆土に混入した遺物や表探で多数の縄文土器片が出土しており、当調査区域には縄文時代の遺物包含層が存在していた可能性があります。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成28年8月22日、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、鬼怒川緊急対策プロジェクト地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育庁総務企画部文化課は、平成29年5月22・24日、6月16・28日に現地踏査を、令和2年2月4日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。令和2年3月2日、事業地内に中居指遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和2年1月16日、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。令和2年3月5日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。鬼怒川の再度の災害防止に向けての緊急的、集中的な河川の工事のため、発掘調査は茨城県教育庁総務企画部文化課が令和2年3月9日から3月17日まで実施した。

## 第2節 調査経過

中居指遺跡の調査は、令和2年3月9日から3月17日まで実施した。その概要は以下の通りである。

- 3月9日 調査準備、表土除去、遺構確認  
3月10日～16日 遺構調査  
3月17日 補足調査、撤収

工程	期間	3月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
調査準備 表土除去 遺構確認						■							
遺構調査						■	■	■	■				
補足調査 撤収									■				

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

中居指遺跡は、茨城県下妻市大字中居指字町田 270 番地ほかに所在している。

下妻市は茨城県の西部に位置している。下妻市域は、東から筑波台地・下妻台地・結城台地の3つの台地に大別され、これらの台地形成は、市域を流れる小貝川と鬼怒川によるものとされている。下妻台地は、旧河川跡と考えられる低地部との比高差がさほど見られない標高 20 ~ 25 m の微高地で、台地の東端部は谷津が入り込み、西端部は鬼怒川に沿って自然堤防が続いている。遺跡に西面する鬼怒川は、古代においてはあばれ川として知られ、現在と大きく流路が異なり、下妻市街地の南辺を東流して高道祖地区の南西部まで屈曲し、小貝川と合流していたとされている。市域の北東域は常に水量豊富な一带で、万葉集にも詠まれた「鳥羽の淡海」(常陸國風土記では「勝波の江」と呼ばれる大湿地帯が広がっていた)。

地質は、青灰色あるいは暗褐色のシルトと砂が互層となっている層を基盤とし、その上に地層の不明瞭な細砂中砂層があり、その上部に灰白色火山灰質粘土、関東ローム層が重なり、最上部は腐植土層となっている。

本遺跡は、下妻市の西端で、鬼怒川左岸の標高 25 m の低台地上に立地している。鬼怒川に西面し、流路の変更により、遺跡の一部は削平されている。遺跡の現況は畑と宅地である。

### 第2節 歴史的環境

中居指遺跡周辺の鬼怒川・小貝川中流域の台地上や低地からは、旧石器時代から近世まで多くの遺跡が確認されている。ここでは、当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、下妻市の東側に位置する桜塚遺跡<sup>1)</sup>で、15,000 年ほど前と考えられる柳葉形尖頭器が出土している。また、柴崎遺跡<sup>2)</sup>では、頁岩製のナイフ形石器が採取されている<sup>1)</sup>。本田屋敷遺跡<sup>41)</sup>からは黒曜石製の細石刃核が出土し、分布調査ではナイフ形石器と細石刃が採集されている<sup>2)</sup>。鬼怒川右岸に位置する西原遺跡<sup>37)</sup>では、調査で局部磨製石斧や楔形石器、削器を組成とするブロック 1 か所を確認し、茨城編年 II a 古段階に比定されている<sup>3)</sup>。西原遺跡の東に隣接する一本木遺跡<sup>36)</sup>では、遺構に伴うものではないが、安山岩製の石刃や黒曜石の縦長剥片などが出土している<sup>1)</sup>。また、鬼怒川右岸の結城台地南部に所在する氏神 A 遺跡では、試掘調査で黒曜石製の細石刃核が出土している<sup>5)</sup>。

繩文時代の遺跡は、鬼怒川やその支谷を臨む台地上に確認されている。早期、前期の遺跡は総じて少ない。下妻台地の北東部に位置する北山権現遺跡では撫糸文系土器が、また、砂沼から北東に位置する東山遺跡では田戸下層式土器が採集されている。市域の中央部を南流する小貝川支流の糸操川右岸に位置する大木田向遺跡、鬼怒川と砂沼の自然堤防上に位置する根崎前遺跡<sup>13)</sup>、小貝川支流の内沼川左岸に位置する神明 A 遺跡、弥平太遺跡からは茅山式土器や貝殻腹縁文による浮島式土器が出土している。また、岡本遺跡<sup>38)</sup>では、細片のため時期は不詳となっているが、前期の繩維土器が出土している<sup>2)</sup>。繩文時代中期は、市域内で最も多い遺跡数となり、大木田向遺跡や桜塚遺跡などで確認され、勝坂式・阿玉台式・加曾利 E 式土器などが出土している。また、鬼怒川右岸の台地上には、仁江戸東遺跡、仁江戸西遺跡、仁江戸南遺跡<sup>35)</sup>、柴崎遺跡が分布し、前期から中期にかけての遺物が採集されている。仲道遺跡<sup>42)</sup>では、加曾利 E IV 式の土坑 4 基が調査されており、

また、遺構外出土として石製の刃器が確認されている<sup>2)</sup>。西原遺跡では、谷津に沿って一定の間隔を保ちながら、加曾利EⅢ式の28基の陥穴が約120mにわたって直線上に並んで確認されている<sup>3)</sup>。当遺跡の主体的な時期となる後期・晩期の遺物は、本田屋敷遺跡、一本木遺跡、弥平太遺跡などで確認されている。本田屋敷遺跡では、称名寺式の土坑や遺物包含層などが確認され、称名寺式期から晩期後半の遺物が多量に出土している<sup>2)</sup>。一本木遺跡では、縄文時代後期の堅穴建物跡1棟が<sup>4)</sup>、弥平太遺跡からは、晩期の遮光器土偶2点と、土偶と同じ文様をもつ土版などが出土している<sup>5)</sup>。

弥生時代の遺構は少なく、調査によって弥生時代の遺構が確認されたのは、結城台地の中でも、北側の台地の南東寄りに位置する源訪前遺跡のみで、後期の堅穴建物跡が1棟確認されている<sup>7)</sup>。また、鬼怒川右岸の皆葉地域に位置する遠山遺跡では、中期末～後期前半の壺形土器片が出土している<sup>8)</sup>。

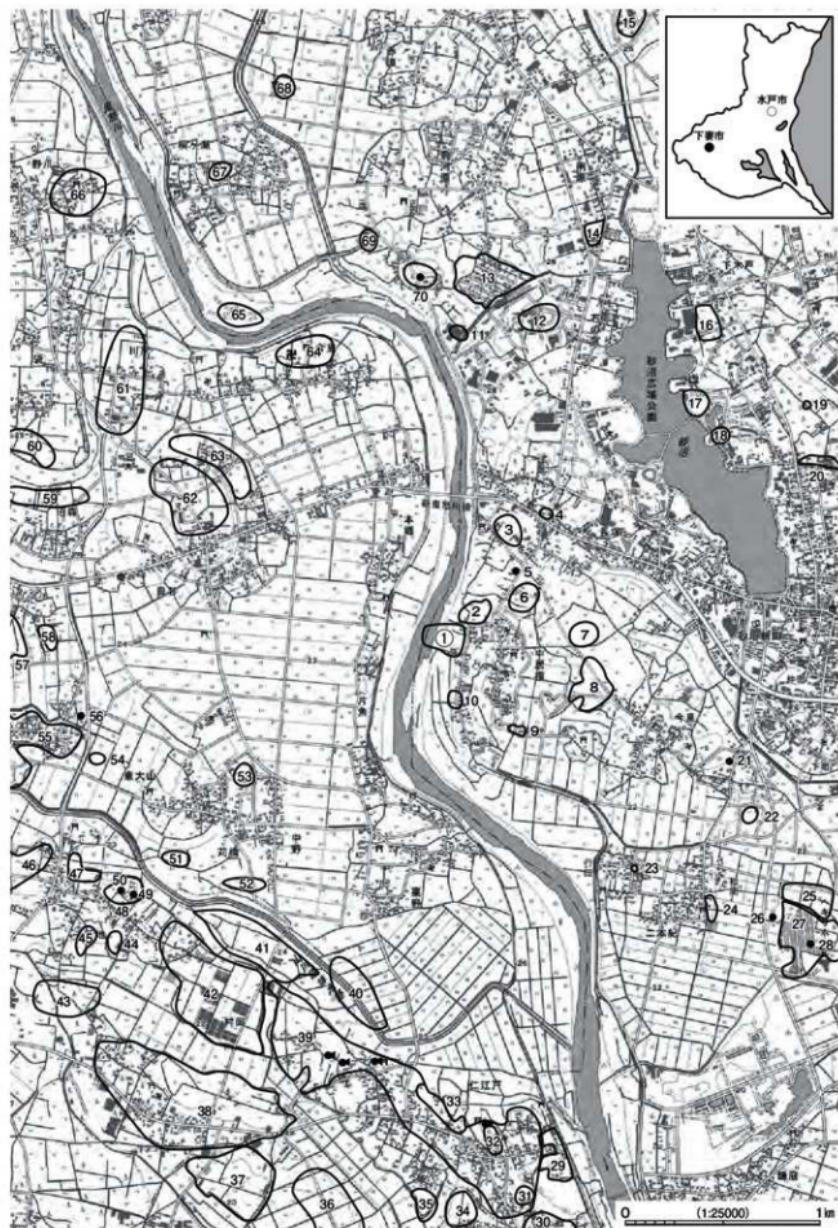
古墳時代の遺跡は、当遺跡から南西側に2kmほど離れた台地に立地する国生本屋敷遺跡が挙げられる。遺跡からは古墳時代前期の豪族居館跡が発見され、一辺約70mの方形の堀やその内側に設けられていた居館の四辺を掘る櫛木列が確認されており注目されている<sup>9)</sup>。また、古墳としては、野方古墳群（28）がある。同古墳群は少なくとも18基からなり、野方台遺跡の調査範囲内から17基が確認されている。埋葬施設が明らかとなったものはすべて凝灰質砂岩の石積み箱式石棺で、黒雲母片岩を多用する当地域では極めて珍しい埋葬施設である。埴輪を伴う第12号墳（帆立貝形）は6世紀後半と考えられている。八千代町の南東端部、鬼怒川右岸の標高21～26mの台地上に位置する仁江戸古墳群（32）は、現在までに2基の前方後円墳と19基の円墳の計21基が確認されている。第7号墳では、粘土床に木棺を置く粘土櫛からなる主体部が確認され、多数の円筒埴輪（朝顔形を含む）、形象埴輪（人物、動物）が出土している。伴出した土師器の高窓の年代から、5世紀末～6世紀初頭の築造年代が与えられている<sup>10)</sup>。第13号墳は、当古墳群で最大規模の香取神社古墳と同じ向きで、前方後円墳の可能性がある<sup>11)</sup>。

奈良・平安時代の当該地域は、新治郡下真郷もしくは川曲郷に属していたと考えられる。下妻地方では河川改修に関する記事が「続日本紀」神護景雲二年（768年）八月十九条に記載されており、下総国結城郡小塙郷小嶋村（結城市水海道・八千代町大渡戸周辺を推定）から常陸国新治郡川曲郷受津村（下妻市桐ヶ瀬・赤須周辺を推定）までの一千里丈（約3km）に及ぶ改修工事が行われていたとされる<sup>12)</sup>。また、国生本屋敷遺跡では、豪族居館跡とほぼ同位置に方形区画の溝跡が周回しており、須恵器の环蓋や赤彩の盤状坏が出土していることから、律令時代初期（7世紀中葉から8世紀初頭）としている。また、市域では源訪前遺跡において、平安時代の堅穴建物跡23棟、掘立柱建物跡3棟が確認され、灰釉陶器・綠釉陶器、墨書・朱書き土器、瓦などの注目される遺物が出土している<sup>13)</sup>。

※ 文中の（ ）内の番号は、第1図及び第1表の該当遺跡番号と同じである。

#### 註

- 1) 赤井博之『市内遺跡7』下妻市埋蔵文化財調査報告書第13集 2017年3月
- 2) 伊藤玄三・田部秀男・石川太郎ほか『村岡遺跡群 本田屋敷遺跡 仲道遺跡 国本遺跡』千代川村埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 1998年3月
- 3) 赤井博之・小川和博・大庭淳志・石川太郎『西原遺跡』千代川村埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 2000年3月
- 4) 藤原均『一本木遺跡発掘調査報告書』八千代町埋蔵文化財調査報告書第5集 1991年3月
- 5) 小川和博・大庭淳志ほか『氏神八遺跡』八千代町埋蔵文化財調査報告書第7集 1998年3月



第1図 中居指遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「下妻」）

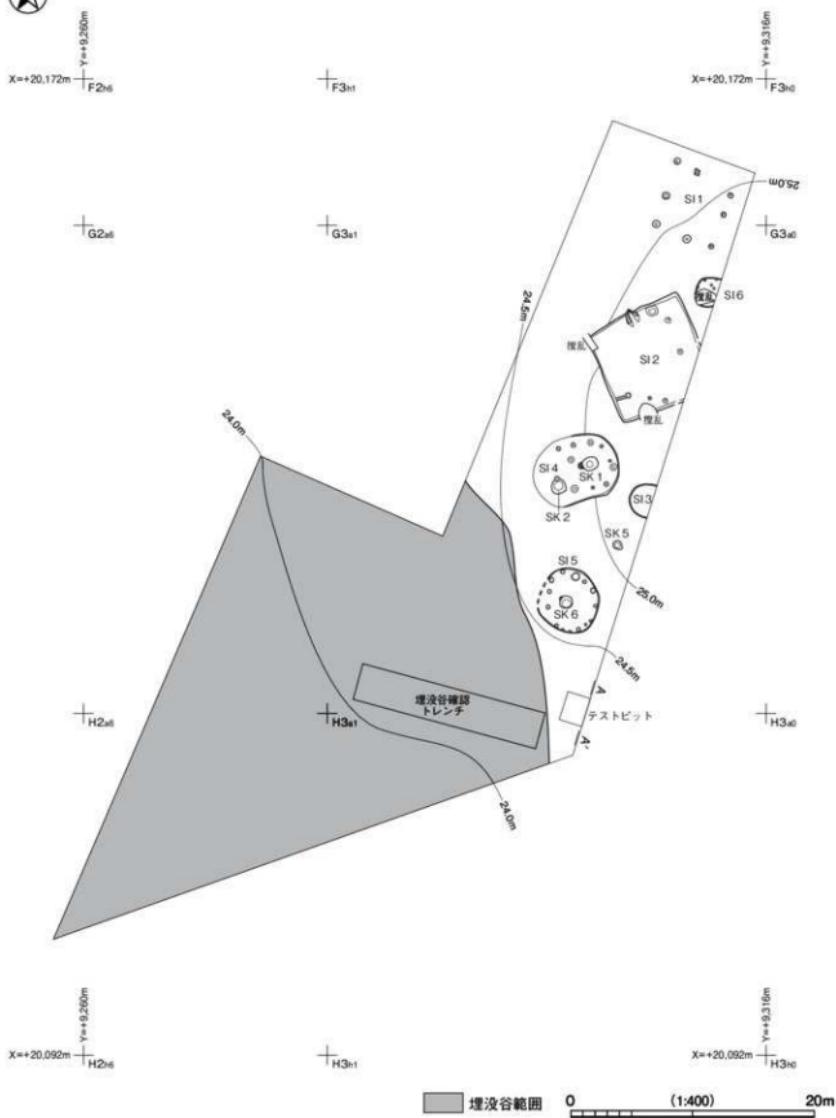
第1表 中居指遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
1	中居指遺跡	○	○					36	一本木遺跡	○	○	○	○	○	○	○
2	北浦遺跡	○		○	○	○	○	37	西原遺跡	○	○		○	○	○	○
3	長塚居村遺跡	○		○	○		○	38	岡本遺跡	○		○	○	○	○	○
4	天神台遺跡						○	39	柴崎遺跡	○	○		○	○	○	○
5	長塚薬師堂古墳				○	○	○	40	江崎遺跡				○	○	○	○
6	白鳥西遺跡	○			○	○	○	41	本田屋敷遺跡	○	○		○	○	○	○
7	白鳥北遺跡	○		○	○	○	○	42	仲道遺跡	○	○	○	○	○	○	○
8	白鳥南遺跡	○		○	○	○	○	43	沼尻遺跡	○			○	○	○	○
9	琵琶島遺跡						○	44	宿南遺跡						○	
10	馬場坪遺跡			○	○			45	前原遺跡				○	○		
11	寺山前遺跡			○				46	西袋遺跡	○			○	○		
12	前河原古墳群				○			47	峯山遺跡	○						
13	根崎前遺跡	○						48	宿北遺跡			○	○			
14	南原遺跡			○	○			49	宿古墳			○				
15	牛観音前遺跡	○						50	宿北古墳			○				
16	天神塚遺跡					○		51	在家遺跡				○	○		
17	愛宕浦遺跡			○	○	○		52	宮崎遺跡				○	○		
18	愛宕遺跡	○					○	53	薬師遺跡				○	○	○	
19	下妻西原遺跡	○				○		54	諏訪西遺跡			○				
20	下妻西町遺跡						○	55	太田城跡	○			○	○		
21	諏訪台古墳				○			56	太田古墳			○				
22	広岡遺跡	○			○	○	○	57	栗崎遺跡				○	○		
23	行田遺跡				○			58	沼森野方遺跡				○	○		
24	松岡前遺跡				○	○		59	沼森本田遺跡				○	○		
25	申内遺跡				○	○	○	60	宮東遺跡				○			
26	西畠遺跡	○		○	○	○	○	61	川尻北遺跡				○	○	○	
27	野方台遺跡	○	○	○	○	○	○	62	小瀬前遺跡				○	○	○	
28	野方古墳群			○				63	小瀬後遺跡				○	○	○	
29	内田向遺跡			○	○		○	64	寺ノ前遺跡				○	○	○	
30	中台遺跡	○		○	○	○	○	65	上河原遺跡	○		○		○		
31	松合遺跡				○			66	野爪鹿島神跡	○		○	○	○		
32	仁江戸古墳群				○			67	正法寺遺跡	○		○	○	○		
33	仁江戸中遺跡					○		68	赤須十二天遺跡				○	○	○	
34	西新田遺跡	○			○			69	前河原山王台遺跡	○		○	○			
35	仁江戸南遺跡	○	○		○	○	○	70	前河原古墳群	○			○			

- 6) a 下妻市福さん委員会「下妻市史」下妻市 1979年11月  
     b 吹野富美夫『図説 結城・真壁・下館・下妻の歴史』郷土出版社 2004年2月
- 7) 赤井博之・水野順敏『諏訪前道路第1地点』下妻市埋蔵文化財調査報告書第6集 2012年8月
- 8) 赤井博之『市内道路4』下妻市埋蔵文化財調査報告書第9集 2014年3月
- 9) 阿部義平・平川南・杉山晋作・峰須紀夫『茨城県常総市国生本屋敷遺跡発掘調査報告』国立歴史民俗博物館研究報告 第129集 2006年3月
- 10) 山野井哲夫・大瀬淳志・小川和博『仁江戸7号墳』八千代市教育委員会 2002年3月
- 11) 海老澤稔『仁江戸古墳群』茨城県教育財团文化財調査報告第411集 2016年3月
- 12) 赤井博之『図説 結城・真壁・下館・下妻の歴史』郷土出版社 2004年2月
- 13) 鹿島直樹・村山卓『諏訪前道路第2地点』下妻市埋蔵文化財調査報告書第7集 2012年3月



第2図 中居指遺跡調査区設定図(下妻市都市計画図2,500分の1)



第3図 中居指遺跡遺構全体図（400分の1）

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

中居指遺跡は、下妻市の西部に位置し、鬼怒川左岸の標高20～25mの台地縁辺部に立地している。調査面積は1,312m<sup>2</sup>で、調査前の現況は宅地、山林、雑種地である。今回の調査区は遺跡範囲の中央部に当たり、鬼怒川川床から遺物の出土が見られることから、以前はより西側に広がり、河川の氾濫等により湮滅したと考えられる。今回の調査では、竪穴建物跡6棟（縄文時代4・古墳時代1・時期不明1）、土坑4基（縄文時代3・時期不明1）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に27箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・鉢・浅鉢・壺・広口壺・台付鉢・注口土器・製塩土器）、土師器（壺・高壺・甕・手捏土器）、土製品（土版・土偶・有孔円盤・土器片円盤）、石器・石製品（磨製石斧・打製石斧・石錘・石皿・磨石・凹石・敲石・砥石・石劍・独鑄石）などである。

### 第2節 基本層序

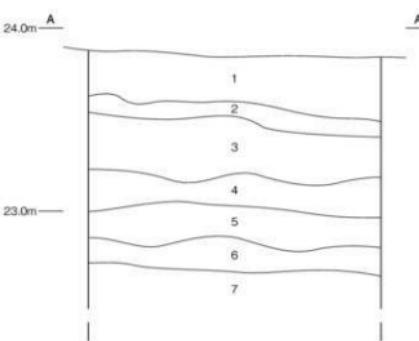
調査区（H3a6区）の台地平坦部にテストピットを設定し、基本土層（第4図）の観察を行った。

第1層は、暗褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともに弱く、層厚は20～35cmである。

第2層は、にぶい黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は4～24cmである。

第3層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～36cmである。

第4層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を少量含んでいる。粘性・締まりともに強く、層厚6～24cmである。



第4図 基本土層図 ※位置は「遺構全体図参照」

第5層は、黄褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子を少量含んでいる。粘性・締まりともに強く、層厚は8～28cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子を少量含んでいる。粘性・締まりともに強く、層厚は10～26cmである。

第7層は、灰白色を呈する層である。白色粘土粒子を中量、赤色粒子を微量含んでいる。粘性・締まりともに強い。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は第2層上面で確認した。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡4棟、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 堅穴建物跡

###### 第3号堅穴建物跡（第5図 PL 1）

**位置** 調査区中央部のG 3 f7 区、標高 25 m ほどの台地上に位置している。

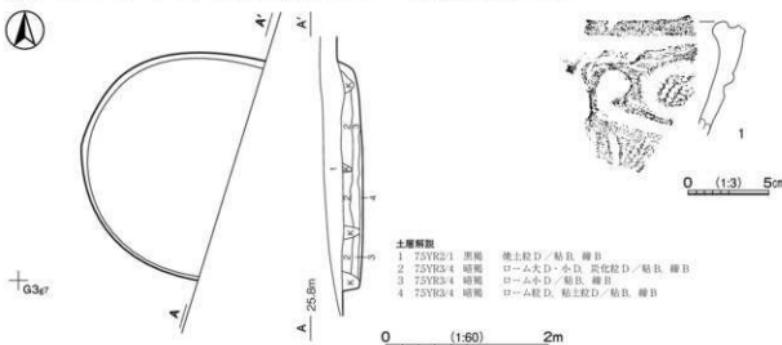
**規模と形状** 東部は調査区域外のため、南北径 281 m で、東西径 185 m しか確認できなかった。平面形は円形あるいは梢円形で、壁は高さ 20 cm で外傾している。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**覆土** 3層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。第1層は古墳時代の表土と考えられる。

**遺物出土状況** 繩文土器片 29点 (600 g)、環2点が覆土中から出土している。

**所見** 遺物は少ないものの、時期判断可能な土器はすべて加曾利 E II式である。



第5図 第3号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第2表 第3号堅穴建物跡出土遺物一覧（第5図）

番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	断土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	SE-SE・西-北	にぶい黒褐	普通	口縁部E→深部墨沈痕	深部帯下沈痕黒文	底いびつな

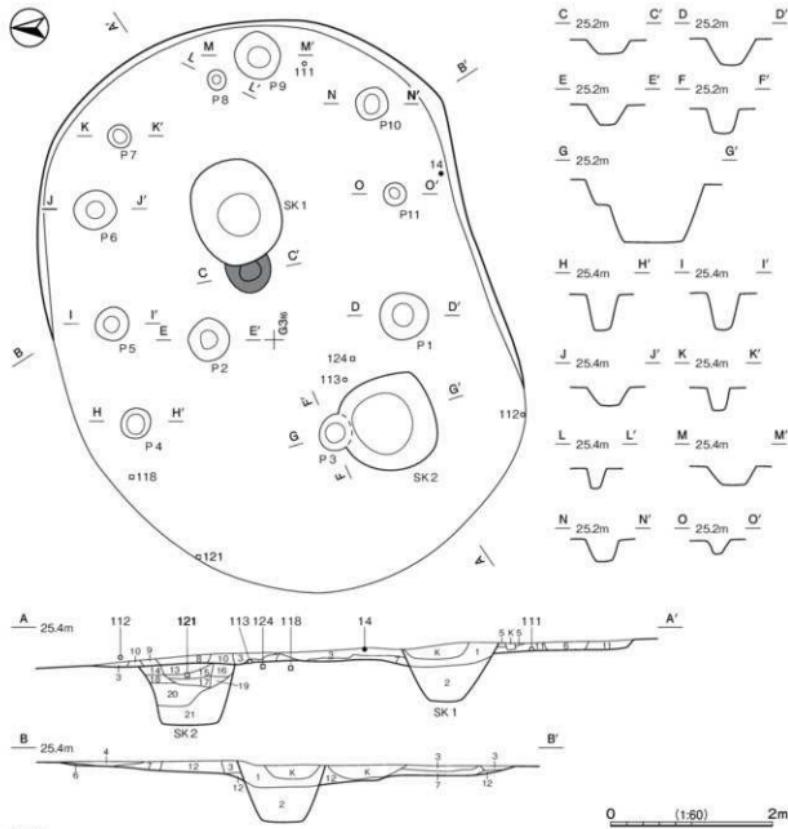
###### 第4号堅穴建物跡（第6～10図 PL 1・2）

**位置** 調査区中央部のG 3 f6 区、標高 25 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号土坑を掘り込み、第1号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 7.11 m、短径 5.37 m の梢円形で、長径方向は N - 55° - E である。壁は高さ 5 ~ 10 cm ほどで、外傾している。傾斜下部の西部は削平のため、壁は確認できなかった。

**ビット** 11か所。P 1 ~ P11 は深さ 18 ~ 44 cm で、P 2・P 3 を除いたビットが壁際に巡っている。性格は不明である。



#### 土層解説

- |                |  |                |   |
|----------------|--|----------------|---|
| 1. 7SYR2/3 研磨  | ローム粒 A. 塗土粒 C. 灰化粒 D / 粘 B. 粘 B (SK1 覆土) | 13. 7SYR2/2 黒泥 | ローム小 C. 塗土小 D-粘 B. 灰化物 D-粘 C / 粘 B. 粘 B (SK2 覆土)    |
| 2. 7SYR2/2 黒泥  | ローム中 A. 塗土小 D. 灰化粒 C / 粘 B. 粘 A (SK1 覆土) | 14. 7SYR2/3 研磨 | ローム粒 B. 塗土粒 C. 灰化粒 D-粘 B. 粘 A (SK2 覆土)              |
| 3. 7SYR4/4 研磨  | ローム粒 B. 灰化粒 C / 粘 C. 粘 B                 | 15. 7SYR3/2 研磨 | ローム中 C. 小 B-粘 A. 塗土小 C-粘 C. 灰化物 C-粘 B. 粘 A (SK2 覆土) |
| 4. 7SYR2/4 研磨  | ローム粒 A. 塗土粒 A. 灰化粒 D / 粘 B. 粘 B          | 16. 7SYR4/3 研磨 | ローム中 C-小 B-粘 A. 塗土粒 D. 灰化粒 D / 粘 B. 粘 A (SK2 覆土)    |
| 5. 7SYR4/3 研磨  | ローム粒 A / 粘 C. 粘 B                        | 17. 7SYR2/1 黒泥 | ローム中 C-小 C-粘 C. 塗土粒 D. 灰化粒 C / 粘 B. 粘 A (SK2 覆土)    |
| 6. 7SYR2/4 研磨  | ローム粒 A. 灰化粒 C / 粘 B. 粘 B                 | 18. 7SYR2/2 黒泥 | ローム中 C-小 C-粘 B. 塗土粒 D. 灰化粒 D / 粘 B. 粘 A (SK2 覆土)    |
| 7. 7SYR2/3 研磨  | ローム粒 A. 灰化粒 D / 粘 B. 粘 A                 | 19. 7SYR3/1 黒泥 | ローム小 C-粘 B. 塗土粒 D. 灰化物 D / 粘 B. 粘 A (SK2 覆土)        |
| 8. 7SYR2/2 黒泥  | ローム粒 C. 塗土粒 C. 灰化粒 C / 粘 B. 粘 B          | 20. 7SYR3/2 黒泥 | ローム大 D-中 C-小 B-粘 A. 塗土粒 D / 粘 B. 粘 B (SK2 覆土)       |
| 9. 7SYR2/4 研磨  | ローム粒 B. 塗土粒 D / 粘 A. 粘 A                 | 21. 記録なし       |   |
| 10. 7SYR2/2 黒泥 | ローム粒 C. 塗土粒 C. 灰化粒 C / 粘 B. 粘 B          |                |   |
| 11. 7SYR4/4 研磨 | ローム粒 A. 塗土粒 D / 粘 B. 粘 A                 |                |   |
| 12. 7SYR2/3 研磨 | ローム粒 A. 塗土粒 D. 灰化粒 C / 粘 B. 粘 B          |                |   |

第4図 第4号堅穴建物跡、第1・2号土坑実測図

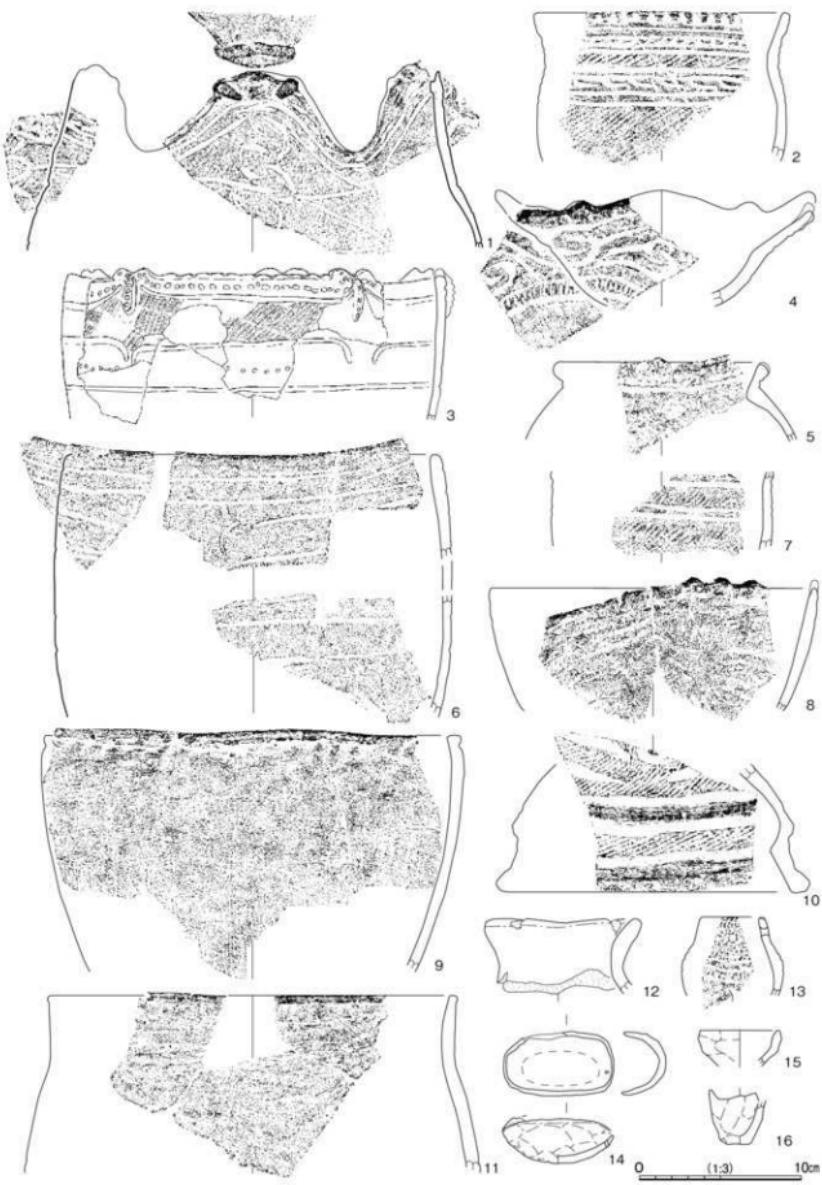
**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 中央に付設されている。径 54cm ほどの円形あるいは梢円形と推測され、深さ 18cm の地床炉である。

**覆土** 10 層に分層できる。ローム粒子を多量に含み不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。

第1・2層は SK1、第13～21層は SK2 の覆土である。

**遺物出土状況** 繩文土器片 2523 点 (49.600 g)、土製品 7 点 (土版 1、土偶 2、土器片円盤 4)、石器 18 点 (石核 3、剥片 4、石皿 3、磨製石斧 1、打製石斧 2、磨石 1、凹石 3、砥石 1)、石製品 3 点 (石劍、石剣カ、独結石)、焼成粘土塊 1 点 (22.03 g)、発泡片 3 点 (14.0 g)、焼骨片カ 1 点のほか、混入した土師器片が出土



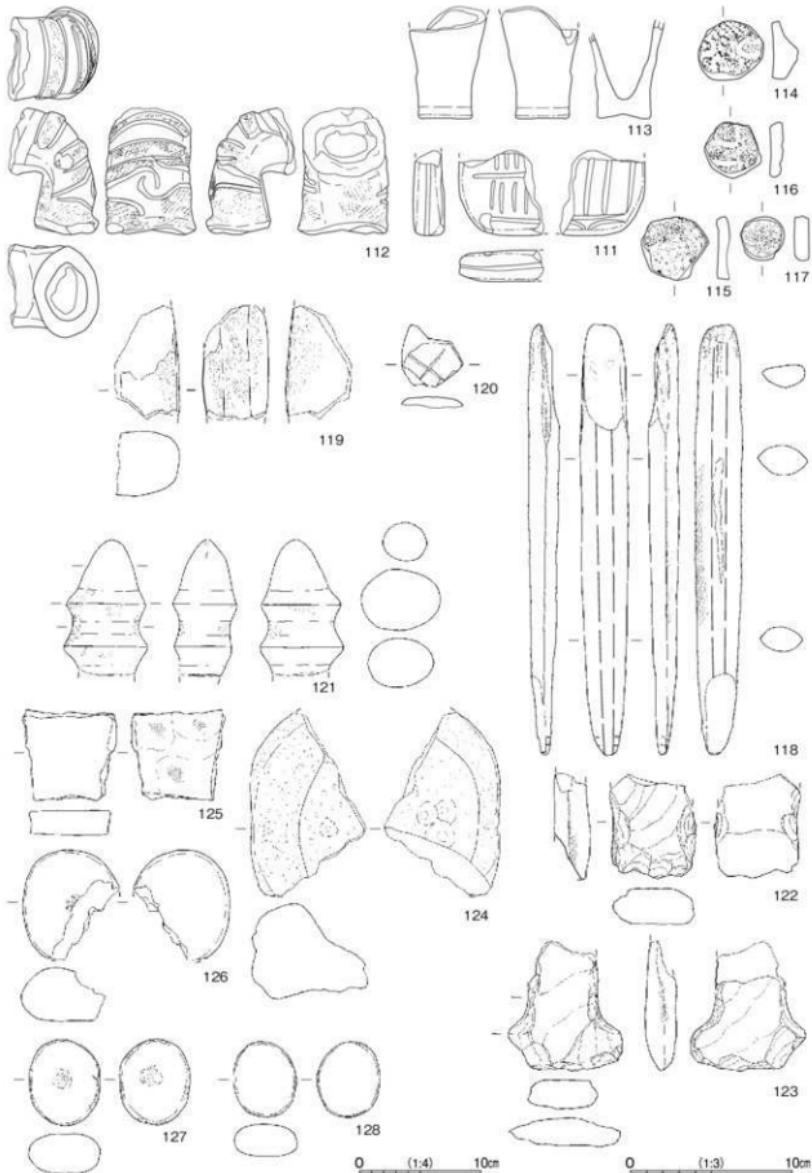
第7図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第8図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)



第9図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)



第10図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図(4)

している。113・124は中央部、118は北西部壁前、121は西部壁際の床面から、112は南部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 遺物が加曾利E III式から安行3d式期まで、そのうち30%が安行3c式期である。床面付近から安行3c式から安行3d式期に比定できる土版、土偶、独鉛石が出土している。よって時期は安行3c式から安行3d式期である。

第3表 第4号竪穴建物跡出土遺物一覧（1）（第7・8図）

番号	種別	器種	口径	深さ	底径	胎	土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	漆鉢	[21.2]	(106)	-	長石・石英・赤色粒子	漆	灰褐色	普通	6段の漆鉢。口縁部に漆刷毛状模様。口部入り組み文で輪郭線	覆土中	5% PL.4
2	縄文土器	漆鉢	[15.0]	(9.0)	-	長石・石英	漆	灰褐色	普通	口縁部に10段の漆刷毛状模様。口部入り組み文で輪郭線	4区1x	10% PL.4
3	縄文土器	漆鉢	[22.6]	(9.6)	-	長石・石英	灰陶	灰褐色	普通	口縁部に逐漸する変形状区画文。無刷毛状模様	覆土中	50% PL.3
4	縄文土器	浅鉢	[18.9]	(7.0)	-	長石・石英	漆	灰褐色	普通	口縁部に4段の漆刷毛状模様。4单位。口部入り組み文	4区1x	20% PL.4
5	縄文土器	漆鉢	[12.0]	(4.8)	-	長石・石英	灰陶	普通	口縁部に2段の漆刷毛状模様。口部入り組み文	漆土中	10% PL.4	
6	縄文土器	漆鉢	[23.0]	(16.0)	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	2段の漆刷毛状模様	覆土中	5%	
7	縄文土器	漆鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	漆刷毛状模様	3区1x	10%	
8	縄文土器	漆鉢	[19.8]	(8.1)	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	口縁部に2段の漆刷毛状模様。口部入り組み文	漆土中	10% PL.4	
9	縄文土器	漆鉢	[25.4]	(15.4)	-	長石・石英・赤色粒子	漆	灰褐色	普通	口縁部に横模様のナメテ。体部側位の条線+縦いナメテ	覆土中	10% PL.3
10	縄文土器	台付鉢	-	(7.8)	[18.6]	長石・石英・赤色粒子	漆	灰褐色	普通	口縁部に光燒痕の漆刷毛状模様。太い沈線内などり	P 1覆土中	10% PL.4
11	縄文土器	漆鉢	[25.0]	(10.9)	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	漆刷毛状模様と内面ナメテ	覆土中	10%	
12	縄文土器	甕	8.8	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	外・内面等身	覆土中	10% PL.3	
13	縄文土器	漆鉢	[3.6]	(4.8)	-	長石・石英	漆	灰褐色	普通	口縁部に縦い斜文。内面入り組み文	P 1覆土中	10% PL.4
14	縄文土器	漆鉢	6.8	2.7	-	長石・石英・雲母	漆	普通	口縁部に内面等身ナメテ	覆土上層	90% PL.3	
15	縄文土器	漆鉢	[4.8]	(2.3)	-	長石・石英	漆	普通	外・内面ナメテ	覆土中	40% PL.4	
16	縄文土器	漆鉢	-	(3.4)	1.4	長石・石英	漆	灰褐色	普通	外・内面指模ナメテ	P 1覆土中	60% PL.3
17	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黑陶	普通	DL.漆刷毛状模様。内に沈線文。突起下に縱長瘤	3区1x		
18	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	口縁部に漆刷毛状模様。口縁部に漆刷毛状模様	漆土中		
19	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	漆	普通	漆刷毛状模様による三形孔文。底盤下に横筋+楕円形	覆土中		
20	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	漆	普通	口縁部に漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	1区1x		
21	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	口縁部に漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	3区1x		
22	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	口縁部に漆刷毛状模様による三形孔文。底盤下に横筋	覆土中		
23	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	漆刷毛状模様による三形孔文。底盤下に横筋	漆土中		
24	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	口縁部玉筋き三文式。DL.光燒	覆土中		
25	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様	2区1x		
26	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様	覆土中		
27	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による幾何文。注ヨリ	4区1x		
28	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	口縁部DL.漆刷毛状模様による幾何文。漆刷毛状模様	漆土中		
29	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	漆刷毛状模様による幾何文。漆刷毛状模様	漆土中		
30	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様	漆土中		
31	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様	漆土中		
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による幾何文。DL.光燒	覆土中		
33	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文	漆土中		
34	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様	漆土中		
35	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文	漆土中		
36	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰陶	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	1区1x		
37	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	漆刷毛状模様による幾何文。DL.光燒	覆土中		
38	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	1区1x	PL.4	
39	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	漆土中		
40	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による二溝の載鉢	4区1x		
41	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文	漆土中	PL.4	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明陶	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	漆土中	PL.4	
43	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様	2区1x		
44	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	漆土中		
45	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	漆	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	漆土中		
46	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	漆	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	漆土中	PL.4	
47	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による幾何文。漆刷毛状模様	1区1x		
48	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。外縁2列の網突	1区2x		
49	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	明陶	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。漆刷毛状模様	漆土中	PL.4	
50	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。漆刷毛状模様	P 1覆土中	PL.4	
51	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	漆	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	漆土中		
52	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	P 1覆土中	PL.4	
53	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様。漆刷毛状模様	漆土中		
54	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。漆刷毛状模様	漆土中		
55	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。漆刷毛状模様	漆土中	PL.4	
56	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。漆刷毛状模様	漆土中		
57	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。漆刷毛状模様	漆土中		
58	縄文土器	漆鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	漆	普通	DL.漆刷毛状模様による弧文。漆刷毛状模様	漆土中	PL.4	

第4表 第4号堅穴建物跡出土遺物一覧（2）（第8～10回）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	底成	特徴	出土位置	備考
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石	にぶい黄	普通	棒状文	確認用	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	明赤褐	普通	2段の棒状文	4区2x	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部部2段の棒状文	P1 褐土中	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	棒状文 内面ナデ	褐土中	
63	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	橙	普通	台付 三角形内凹文と横線文	4区1x	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	褐灰	普通	外弧沈継文による渦巻き文と 外・内面輪位のナデ	褐土中	
65	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	口部部横文 外・内面ナデ	4区1x	
66	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	白	普通	口部部横文 口部部刷毛 無施上毛刷	褐土中	
67	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石	褐	普通	口部部刷毛 口部刷毛・底部刷毛 無施上毛刷	褐土中	
68	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄	普通	口部部刷毛 L字形の磨削文	P1 褐土中	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄	普通	口部部2段の截板 PL 線文 二次底成	褐土中	PL.4
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	にぶい黄	普通	口部部沈継文・刻み 膜部 RL 線文	褐土中	
71	縄文土器	直	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	褐灰	普通	LR充填の菱形文 赤彩	褐土中	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	浅黄緑	普通	LR充填の磨削沈継文 台部の可能性あり	4区1x	
73	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石	橙	普通	口部部2段の截板 PT4-75 と同→	褐土中	PL.4
74	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石	橙	普通	口部部北側 口部刷毛・底部刷毛 截板の截板 PT2-75 と同→	褐土中	
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	口部部刷毛・膜部2段の截板 PL 線文	4区1x	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部引手状斜文と磨削文	4区1x	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部引手状斜文と磨削文	4区1x	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	明赤褐	普通	口部部2段の截板 横縫文	4区1x	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	明赤褐	普通	口部部2段の截板 横縫文	4区1x	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	にぶい黄	普通	底部刷毛	4区1x	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部刷毛	P1 褐土中	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部部刷毛・横縫貼付	P1 褐土中	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部部刷毛・横縫貼付・窓位区画文	褐土中	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	橙	普通	口部部刷毛 口部部押圧による小成状	P1 褐土中	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	褐灰	普通	外面部引 内面部引小口状工具によるナデ	4区1x	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	外面部引 内面部引部位の晒き 体部ナデ 内面ナデ	褐土中	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	外面部引 内面部引 無施R縄文	4区1x	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部部刷毛・横縫貼付	P1 褐土中	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部部刷毛・横縫貼付	4区1x	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部刷毛 外・内面ナデ	4区1x	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部刷毛 外・内面ナデ	4区1x	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部部刷毛 外面部引 内面部引	4区1x	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	灰黄褐	普通	外面部引 内面部引 内面部引	褐土中	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	外面部引の晒き 内面部引のナデ	褐土中	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部刷毛 外面部引 内面部引	4区1x	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	橙	普通	外面部引 外・内面ナデ	褐土中	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	橙	普通	口部部刷毛 外面部引 内面部引	4区1x	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	橙	普通	口部部刷毛 口部部窓位の柔繩文	P1 褐土中	PL.4
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	にぶい黄	普通	口部部刷毛 口部部線上に突文	褐土中	PL.4
100	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	山形彫刻 外面部引 内面部引	褐土中	
101	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部刷毛 外面部引 内面部引の晒き	確認用	
102	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	橙	普通	外・内面ナデ	P1 褐土中	
103	縄文土器	製塗土器	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部部構みだし状 外面部引 内面部引	確認用	
104	縄文土器	製塗土器	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	にぶい黄	普通	口部部構みだし状 外面部引 内面部引	P1 褐土中	PL.4
105	縄文土器	製塗土器	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	青	普通	口部部構みだし状 外面部引 内面部引	褐土中	
106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部刷毛 並列に沈起と小突起 外面部引 内面部引	4区1x	
107	縄文土器	製塗土器	-	-	-	灰石・石英	明赤褐	普通	口部部外削ぎ状 外面部引 内面部引	P1 褐土中	
108	縄文土器	製塗土器	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	にぶい黄	普通	口部部外削ぎ状 口部部内削ぎ状 外面部引 内面部引	2区1x	PL.4
109	縄文土器	製塗土器	-	-	-	灰石・石英・黒雲母	にぶい黄	普通	口部部外削ぎ状 口部部内削ぎ状 外面部引 内面部引	褐土中	
110	縄文土器	製塗土器	-	-	-	灰石・石英・青白・赤色粘子	橙	普通	外面部引 内面部引	3区1x	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
111	土瓶	(5.2)	(5.2)	1.9	55.10	灰石・石英・角閃石	米黄	2段の口部引手状斜文 外面部引の晒き	上部中層	PL.5
112	土偶	(7.9)	(5.5)	0.9	13.45	灰石・石英・青白・赤色粘子	中空	腹壁無地の後起土器文 S字状入り範み文 赤彩	床面	PL.5
113	土偶	(6.9)	11-(47)	0.5~1.8	66.47	灰石・石英	黒褐	中空 腹部外面部引	床面	PL.5
114	土器内円筒	36	4.0	0.5~1.6	14.88	灰石・石英・角閃石	橙	安行3式2段の柔繩文利用 周縁打ち欠き	P1 褐土中	
115	土器内円筒	39	4.1	0.8	13.47	灰石・石英・角閃石	黒褐	津屋外筒部利用 周縁打ち欠き	褐土中	
116	土器内円筒	34	3.5	0.8	10.88	灰石・石英・赤色粘子	橙	安行3式~3式3段筒部内筒部利用 周縁打ち欠き	褐土中	
117	土器内円筒	27	2.7	0.9	8.96	灰石・石英	褐	津屋外筒部内筒部利用 周縁打ち欠き	P1 褐土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
118	石劍	26.5	2.9	1.8	207.35	粘板岩	後起地溝下層に北線文	床面	PL.5
119	磨擦片岩	(7.0)	(4.0)	4.0	158.46	砂岩	定角式 表裏の一部・撫觸面に加工時の敲打痕	3区1x	
120	石劍カ	(3.8)	(3.9)	0.7	11.51	細粒片岩	頭部カ×文字彫	P1 褐土中	
121	敲打石	(11.2)	6.9	5.3	415.79	泥岩	括れ部敲打時に加工された敲打痕	床面	PL.5
122	打削石斧	(6.5)	(5.4)	2.2	968.88	ホルフェルス	分離部敲打痕	褐土中	

第5表 第4号堅穴建物跡出土遺物一覧(3)(第10図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
123	打製石斧	(8.0)	7.1	1.9	112.14	ホルンフェルス	分銅型 一側縁部のみ敲打痕	1区1号	PL. 5
124	石墨	(15.0)	9.5	7.8	722.76	安山岩	作成面と原形面の接合部 表面に凹み 表面凹→凸 表面崩→凸	床面	
125	砾石	7.4	7.7	2.0	230.52	流紋岩	擦痕 表面とも光沢のある砾石	確認面	PL. 5
126	円石	(9.1)	7.9	4.3	348.16	流紋岩	表裏光沢のある磨り面 表面ざらつきのある磨り面 凹→凸	1区1号	
127	円石	7.1	5.8	3.3	182.04	安山岩	表裏・側面ざらつきのある磨り面 凹→凸 縫合部に敲打痕	腹土中	PL. 5
128	磨石	6.2	5.1	2.6	135.12	安山岩	表裏光沢のある磨り面 表面ざらつきのある磨り面 凸→凹	1区1号	

第5号堅穴建物跡(第11~15図 PL. 2)

位置 調査区中央部のG 3h5区、標高25mほどの台地上に位置している。

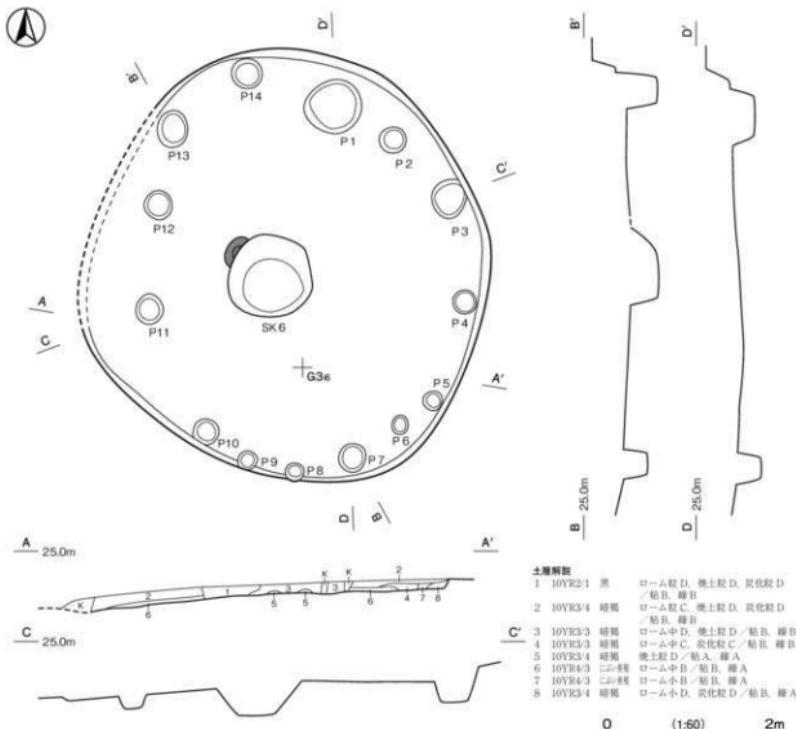
重複関係 第6号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.45m、短軸5.12mの円形である。壁は高さ10~30cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 中央やや西寄りに付設されている地床炉で、長径44cm、短径30cmほどの楕円形と推測される。

ピット 14か所。深さ13~46cmほどのピットがいずれも壁際に位置することから、壁柱穴と考えられる。



第11図 第5号堅穴建物跡、第6号土坑実測図

第6表 第5号堅穴建物跡 ピット深度

番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P12	P13	P14
溝さ(cm)	33	13	46	43	31	38	46	36	43	33	16	37	32	38

覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 繩文土器片 1,297点 (44,410 g), 土製品 1点 (有孔円盤), 石器 11点 (剥片 2, 石皿 1, 磨石 3, 敲石 1, 凹石 4), 焼成粘土塊 1点 (2.91 g), 磐 16点, 烧骨片 1点が出土している。

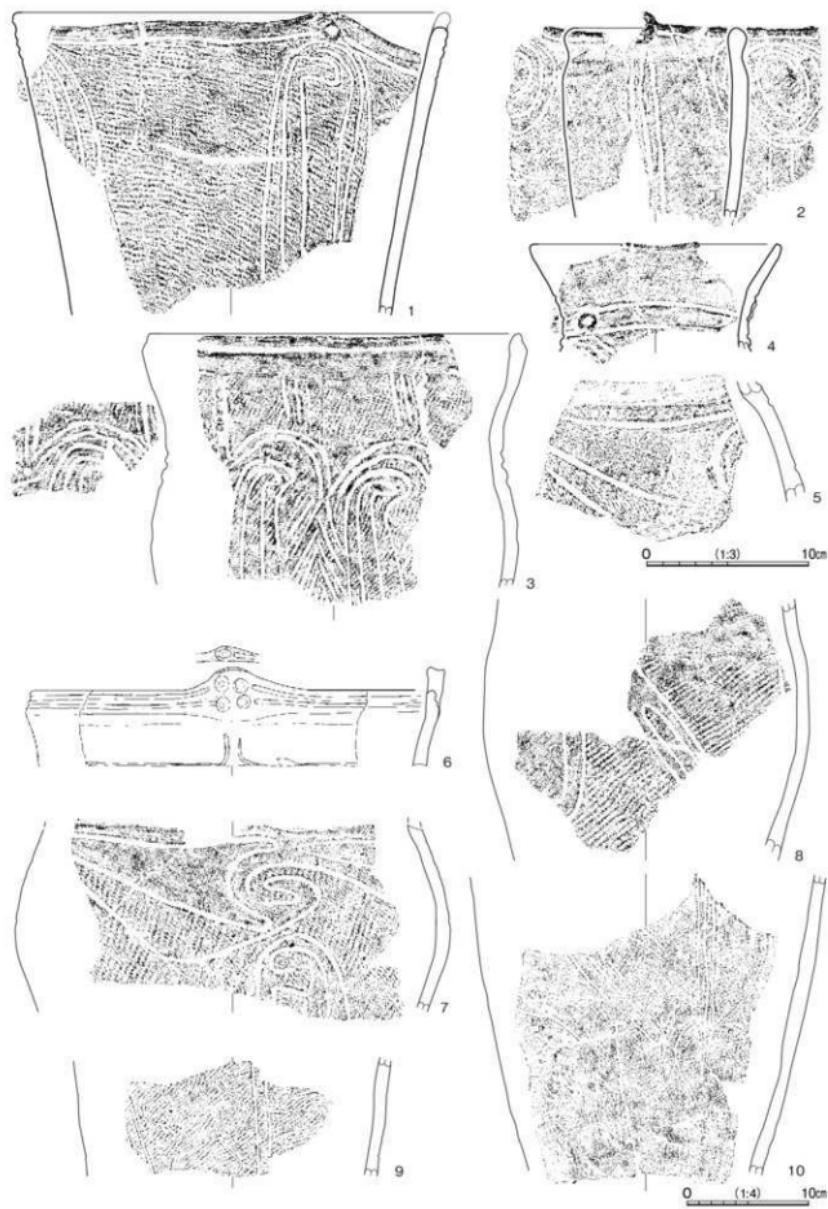
所見 時期は、遺物が加曾利 E III式から出土しているが、時期判断可能な土器が75%ほどを占める堀之内1式期と考えられる。復元可能な土器を見ると、堀之内1式古段階から堀之内2式新段階までが主体となるため、長期間にわたり廃棄が継続したと見られる。

第7表 第5号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第12 ~ 15回)

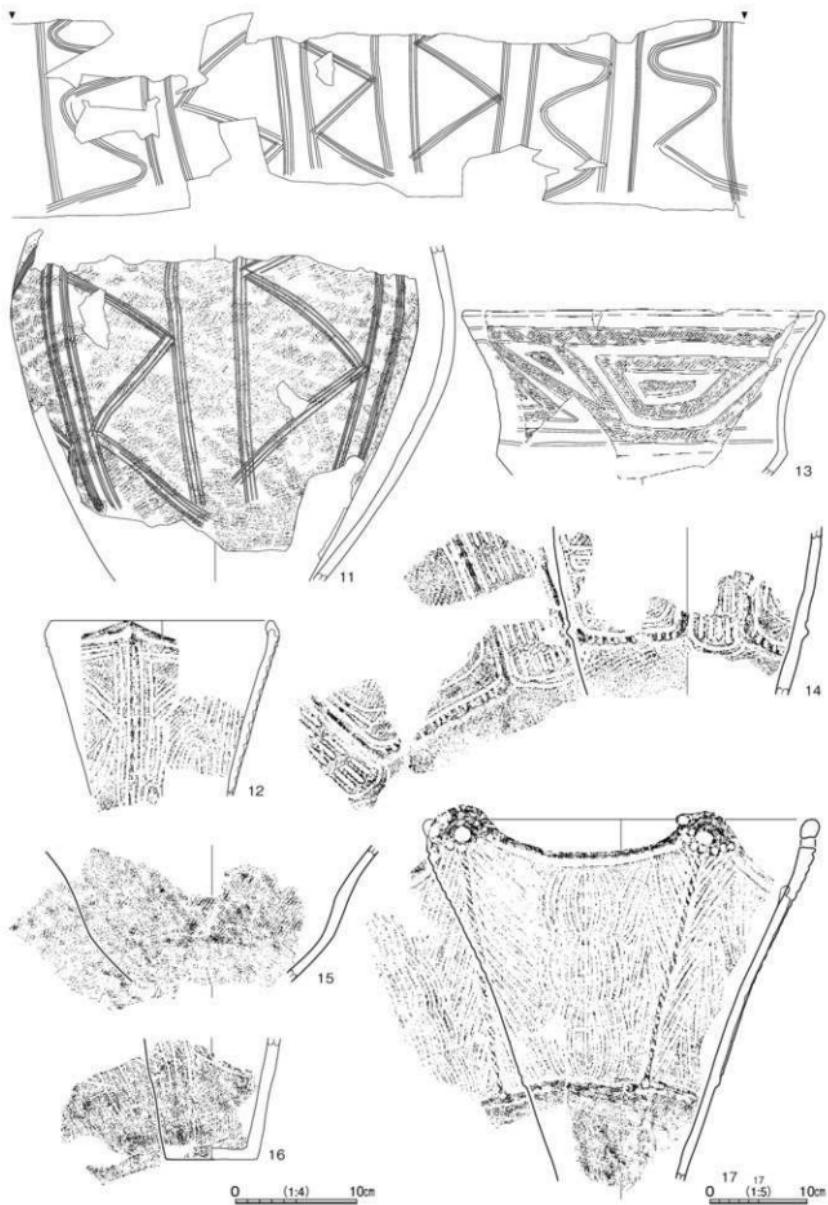
番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[35.2]	[247]	-	灰石・石英・雲母 にぶい程	普通	4単位の段状焼成 RL → 手平状直系文	2区1x 30%	PL 3	
2	縄文土器	深鉢	[100]	[116]	-	灰石・石英・雲母 にぶい程	普通	口縁部・底部無焼成 L → 手内・直系文	2区1x 40%	PL 3	
3	縄文土器	深鉢	[30.2]	[208]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	頭部3本縁の直系文 LR焼成 体部手状直系文	覆土中	30%	PL 3
4	縄文土器	深鉢	[15.0]	[67]	-	灰石・石英 にぶい程	普通	口縁部無焼成 頭部ガチン状點付文 体部直系文	1区1x 10%	PL 4	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	LR → J字状の崩壊焼成	ピット内	PL 4	
6	縄文土器	深鉢	[32.6]	[8.1]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	口縁部に崩壊焼成 RL → 口縁部下の頭部に對弧文	ピット内	10%	
7	縄文土器	深鉢	-	[15.3]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	LR → 口縁部に崩壊する直手文・崩消	ピット内	20%	PL 3
8	縄文土器	深鉢	-	[21.4]	-	灰石・石英・直系文 にぶい程	普通	口縁部に無文 手部直筋 L → 直系文	1区1x 2区1x 10%		
9	縄文土器	深鉢	-	[9.8]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	RL → 崩壊焼成 進行焼成	1区1x 10%		
10	縄文土器	深鉢	-	[24.6]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	地文無焼成 3本1単位の複位凹凸と直向内斜縫文	覆土中	30%	
11	縄文土器	深鉢	-	[27.5]	-	灰石・石英・直系文 にぶい程	普通	口縁部焼成 → 覆向直系文・直向三重文一部平行文	覆土中	60%	PL 3
12	縄文土器	深鉢	[18.0]	[14.3]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	口縁部焼成 → 口向内斜行平行文・巻き文	1区1x 1 PL 4		
13	縄文土器	鉢	[29.4]	[13.5]	-	灰石・石英 にぶい程	普通	LR地縁文による互交三角形文一部彙形	1区1x 10%	PL 3	
14	縄文土器	深鉢	-	[14.0]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	手部上半LR 下半崩れ 内面崩き	覆土中	10%	PL 3
15	縄文土器	鉢	-	[11.2]	-	灰石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	手部上半LR 下半崩れ 内面崩き	1区1x 10%	PL 3	
16	縄文土器	深鉢	-	[10.0]	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	地文無焼成 3本1単位の複位凹凸と直向内斜縫文	覆土中	30%	
17	縄文土器	深鉢	[39.0]	[37.4]	-	長石・石英・雲母 にぶい程	普通	地縁文 RL集合焼成による複位の斜縫文と孤縫文	2区1x 1 PL 3		
18	縄文土器	口付	[8.0~16]	[14.2]	-	長石・石英 にぶい程	普通	RL地縁文2本1単位のU字文	2区1x 1 PL 3		
19	縄文土器	口付	-	-	-	長石・石英・雲母 にぶい程	普通	手部焼成にS字文 体部焼成焼成焼成による文様	覆土中	PL 3	
20	縄文土器	口付	-	[5.5]	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	手部焼成 RL → 手部平行焼成 U字縫合斜縫文	2区1x 1 10%	PL 4	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	LR地縁文 → 手平状直系文	1区1x 1 PL 4		
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	口縁部無焼成 体部LR → 手平状直系文	1区1x 1 PL 4		
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 にぶい程	普通	口縁部無焼成 体部LR → 手平状直系文 P23と同一	ピット内	PL 4	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	手部焼成 RL → 手平状直系文	2区1x 1		
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	口縁部焼成直向焼成焼成による直手文	床面		
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	口縁部直向焼成文 表面に凹みのある突起部から削除するものとされる発達	覆土中	PL 4	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	口縁部無焼成 体部LR → 手平状焼成	1区1x 1		
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	口縁部無焼成 直向頭部に3段の凹溝 LR → 手平状直系文	1区1x 1		
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	無焼成 RLに複数焼成焼成無焼成 RL → 手平状直系文	覆土中	PL 4	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英 にぶい程	普通	RL地縁文	1区1x 1 PL 4		
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英 にぶい程	普通	RL → 崩壊焼成による直手文と斜行充填文	2区1x 1		
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英 にぶい程	普通	黒褐 RL → 手平状直系文	2区1x 1 PL 4		
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	RL → 手平状直系文 縫紋降伏	2区1x 1		
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	浅黄褐	普通 手平焼成直向焼成直向頭部に3段の凹溝	1区1x 1		
35	縄文土器	深鉢	-	[24.4]	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	無焼成 RL → 複位U字文・口向内連続三重文	2区1x 1 30%		
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	地文焼成 RL → 口向直系文	覆土中	PL 4	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	手平状焼成文	覆土中	PL 4	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・直系文 にぶい程	普通	手平状焼成管による筋子目文	2区1x 1 PL 4		
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子 にぶい程	普通	口縁部内面崩き 口縫部内面崩き連続焼成文	1区1x 1		
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英 にぶい程	普通	RL地縁文 → 複位凹凸文	1区1x 1 PL 4		

番号	器種	種	幅	厚	厚さ	重量	胎	色	調	特	微	出	土	位	備	考
41	有孔圓盤	[5.6]	-	1.0	12.70	10.7	石英・石英・赤色粒子 にぶい程	純	純土他文の深鉢部品利用	周縁研磨		覆土中				

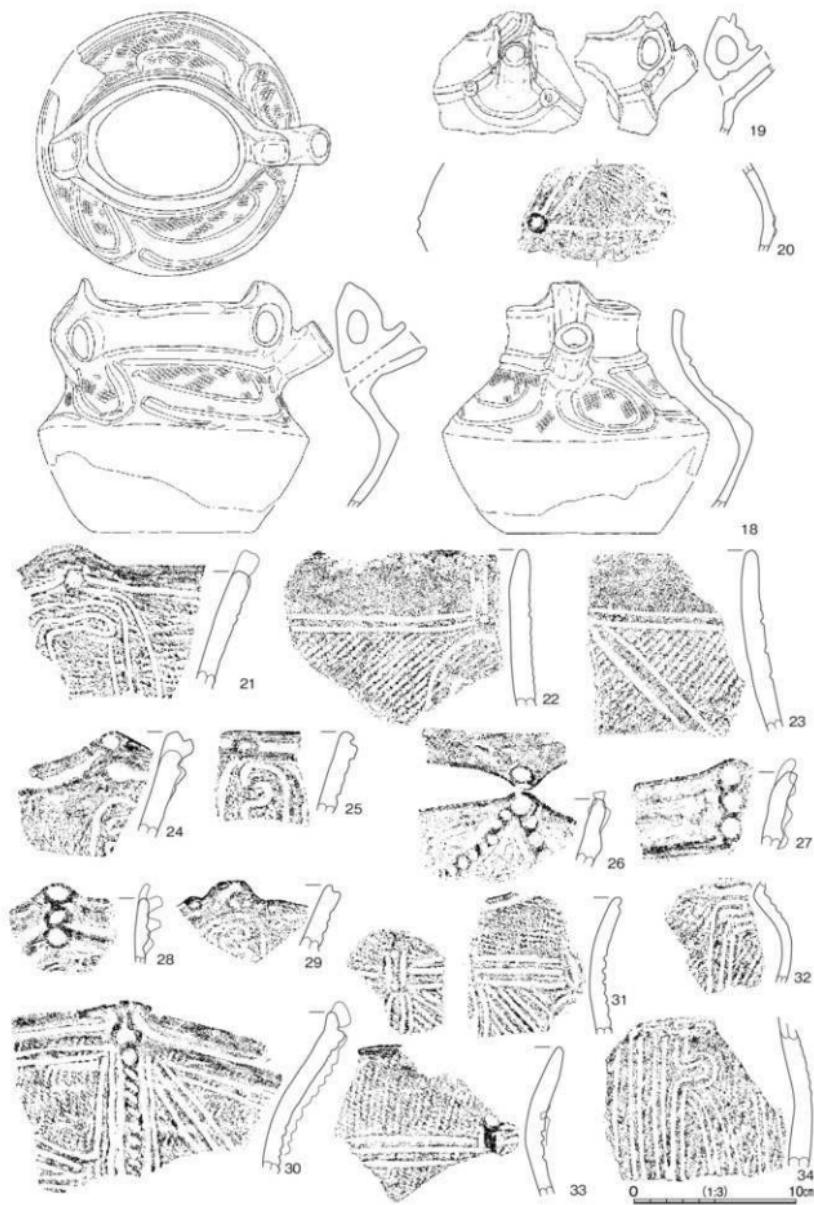
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質				特	微	出	土	位	備	考
42	石皿	(20.0)	[12.4]	5.4	107.924	安山岩						覆土中		PL 5		
43	円石	(8.8)	5.3	4.6	30.343	安山岩						直系文のある崩り面 崩面さらつきのある崩り面	→	直	打鍛直	
44	門石	(9.5)	6.0	3.5	27.014	安山岩						表裏・崩面さらつきのある崩り面	→	崩	直	
45	四石	8.4	4.6	3.9	22.540	安山岩						表裏凹凸のある崩り面 崩面さらつきのある崩り面	→	崩	直打鍛	



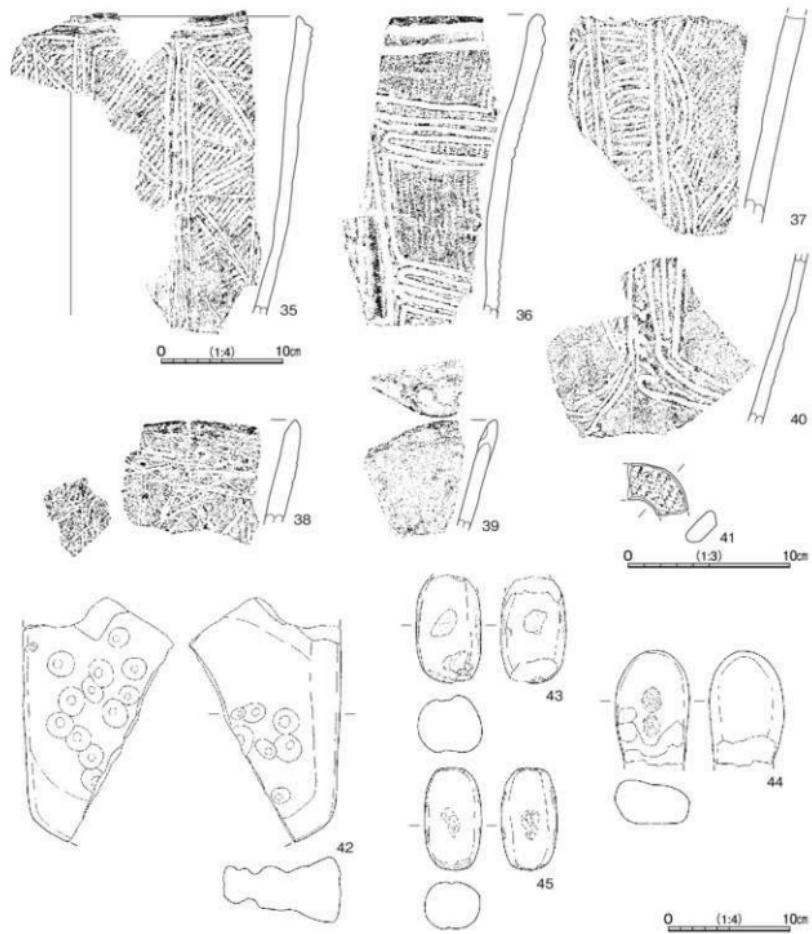
第12図 第5号堅穴建物跡出土遺物実測図(1)



第13図 第5号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)



第14図 第5号堅穴建物跡出土遺物実測図（3）



第15図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図（4）

#### 第6号竪穴建物跡（第16図）

**位置** 調査区中央部のG 3 b8 区、標高 26 m ほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 東部は調査区域外のため、南北径 2.50 m で、東西径は 1.62 m しか確認できなかった。平面形は円形あるいは梢円形と推定される。壁は高さ 24 cm でほぼ直立している。

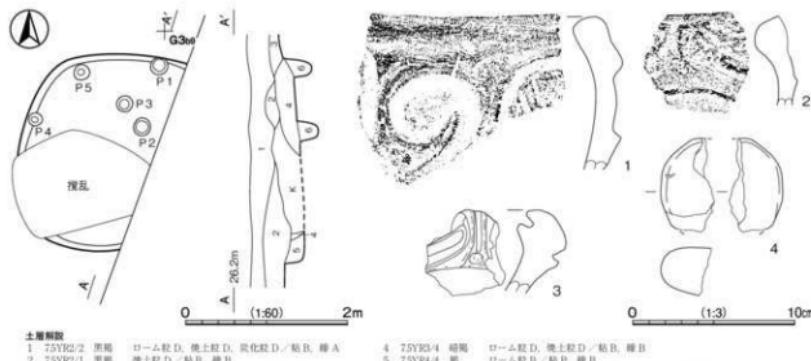
**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**ピット** 5か所。深さ 10 ~ 33 cm ほどのピットで P 1 ~ P 4・第8表 第6号竪穴建物跡 ピット深度

P 5 は壁際に位置することから、壁柱穴と考えられる。出入口

ピットは確認できなかった。

番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
深さ(cm)	10	24	14	28	33



第16図 第6号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**覆土** 2層に分層できる。擾乱を受けており、堆積状況は不明である。第1～3層は古墳時代の表土と考えられる。第6層はピットに関する覆土である。

**遺物出土状況** 繩文土器片43点(1.839g)、石器3点(石皿1、磨石2)が出土している。

**所見** 時期は、加曾利EⅢ式の土器が比較的多く出土することから、加曾利EⅢ式期と考えられる。

第9表 第6号竪穴建物跡出土遺物一覧(第16図)

番号	種別	器種	口径	壁高	底径	胎土	色調	他成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	縄鉢	—	—	—	良石・石英・砂質	濃い黄褐	普通	口縁部内沈痕充填	壁帶協沈痕	覆土中 PL. 5
2	縄文土器	縄鉢	—	—	—	良石・石英・砂質	浅黄褐	普通	側縁帶による逆U字形		覆土中 PL. 5
3	縄文土器	縄鉢	—	—	—	良石・石英・赤色土	ない黄褐	普通	口縁部規則屈曲	底面部に窓紋連携沈文	覆土中 PL. 5
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	他成	特徴	出土位置	備考
4	磨石	(5.8)	(3.3)	(2.9)	61.95	流紋岩	表裏光沢のある磨り面	側面ざらつきのある磨り面	被熱	覆土中	

第10表 縄文時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規格 長径×短径(m)	壁高 (cm)	床面 床面	埋溝 埋立(±2cm)	内部施設 柱穴(±2cm)	覆土 自然	主な出土遺物	時期	備考	
3	G 3.17	—	角形・船形	2.81 × 1.85	20	11.2 平頂	—	—	—	縄文土器、櫛	中期後半		
4	G 3.16 N - 55° - E	規円形	7.11 × 5.37	5 ~ 10	11.2 平頂	—	—	11	1	人為 縄文土器、土製品、石器、石製品	晩期中葉 SK 2 → 本格→ SK 1		
5	G 3.15	—	円形	5.45 × 5.12	10 ~ 30	11.2 平頂	—	—	14	1	人為 縄文土器、土製品、石器、櫛	後期前葉 本格→ SK 6	
6	G 3.18	—	角形・船形	2.50 × 1.62	24	11.2 平頂	—	—	5	—	不明 縄文土器、石器	中期後半	

## (2) 土坑

### 第1号土坑(第6・17図 PL. 2)

**位置** 調査区のG 3.e6区、標高25mほどの台地上に位置している。

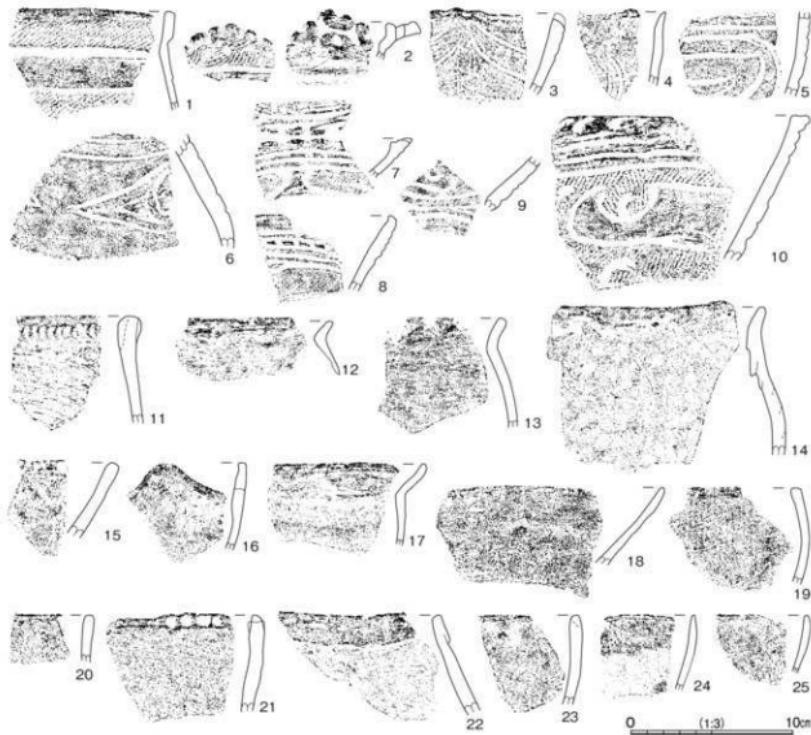
**重複関係** 第4号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径131m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN - 79° - Eである。深さは79cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 縄文土器片281点(6.078g)、石器2点(石皿)、焼成粘土塊1点(16.32g)、焼骨片1点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器から安行3c式から安行3d式期と考えられる。



第17図 第1号土坑出土遺物実測図

第11表 第1号土坑出土遺物一覧(1)(第17図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に赤い網	普通 口縁部LR隆起帶網文 頭部LR光煥磨消鑿文	覆土中 PL.5		
2	純文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	周灰	普通 口縁波浪部に目空窓 外留するLR純文帯	覆土中 PL.5		
3	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	周灰	普通 口縁波浪部に目空窓 光煥磨突文による弧線文	覆土中 PL.5		
4	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に赤い黄網	普通 口縁部構みだし状 多重波紋による弧線文	覆土中		
5	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通 第二快条のある洗濯による砂状文	覆土中 PL.5		
6	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	に赤い黄網	普通 口縫状 異形区画内に快条のある三叉文	覆土中 PL.5		
7	純文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通 LR光煥の雲形文	覆土中 PL.5		
8	純文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	周灰	普通 LR縫部二溝間の痕痕 体部LR光煥の雲形文	覆土中 PL.5		
9	純文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤網	普通 口縫部 L光煥の二字文	覆土中 PL.5		
10	純文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	に赤い黄網	普通 口縫部に弧線文 体部無釉 L光煥の雲形文	覆土中 PL.5		
11	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通 外周頭部条帶一級網状付	覆土中		
12	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に赤い網	普通 広口巻状 外・内面粗い磨き	覆土中		
13	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通 外・内面磨き	覆土中		
14	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	普通 広口巻状 外・内面ナデ	輪積み痕明顯	覆土中		
15	純文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	に赤い網	普通 口縫部二溝間 磨き	覆土中		
16	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に赤い網	普通 山形状の波状口縫 外・内面ナデ	覆土中		
17	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通 外・内面ナデ	覆土中		
18	純文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通 外・内面粗い磨き	覆土中		
19	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通 口縫部外・内面ナデ	覆土中		
20	純文土器	鉢足上部	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通 口縫部カット 外面削り・内面ナデ	覆土中		
21	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通 口縫部凹門 外面削り・内面ナデ	覆土中		
22	純文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通 口縫部外・内面ナデ	覆土中		

第12表 第1号土坑出土遺物一覧(2)(第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部に指壓痕 外・内面ナデ	覆土中	
24	縄文土器	鉢底土器	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口唇部カット 外面削り	内面ナデ	覆土中
25	縄文土器	鉢底土器	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口唇部内削ぎ状 外面削り	内面ナデ	覆土中

## 第2号土坑(第6・18図)

位置 調査区のG 315区、標高25mほどの台地上に位置している。

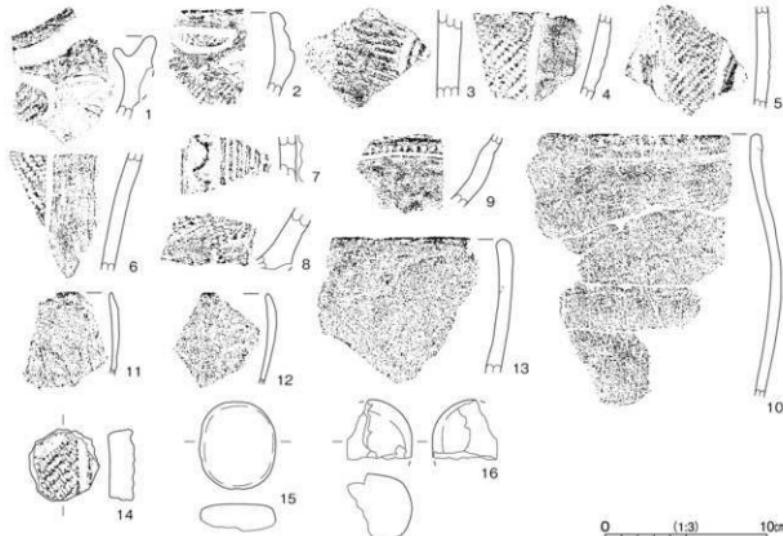
重複関係 第4号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.18m、短径1.15mの円形である。深さは85cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片95点(2,022g)、土製品1点(土器片円盤)、石器4点(石核1、磨石3)、石製品1点(石棒)、焼成粘土塊1点(3.35g)が出土している。

所見 時期は、時期判断可能な土器のうち、加曾利E III式が75%ほどであり、また、重複関係からも加曾利E III式期と考えられる。



第18図 第2号土坑出土遺物実測図

第13表 第2号土坑出土遺物一覧(1)(第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	円筒部内側LR→縄文	覆土中	PL. 5
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部LR→縄文	覆土中	PL. 5
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部LR→縄文	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	LR→沈殿	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	LR→焼青	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	LR→沈殿	覆土中	PL. 5
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	体部半截竹管による継ぎ沈殿→波状隆起	覆土中	PL. 5

第14表 第2号土坑出土遺物一覧(2)(第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	黄石・石英・赤色粘子	褐	普通	体部RL、縁部の垂下磨消純文	覆土中	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	にぶい褐	普通	冠部に丸頭刺突文	覆土中	PL.5
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	明赤褐	普通	付帯部ナデ、体部外面削り 内面ナデ	覆土中	PL.5
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部彫みだし状、外削削り 内面ナデ	覆土中	PL.5
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部彫みだし状、外削削り 内面ナデ	覆土中	PL.5
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	にぶい褐	普通	外削削り 内面ナデ	覆土中	PL.5

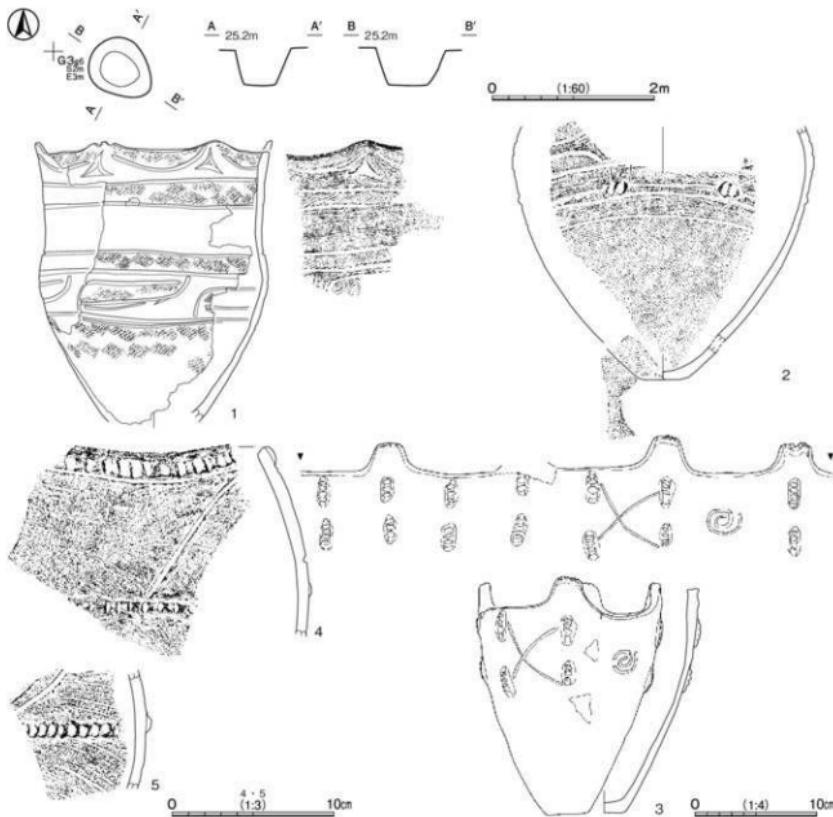
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	土器円盤	43	4.4	1.6	32.23	長石・石英・雲母	程	加曾利E.I-II式深鉢形片利用 周縁打ち欠き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	磨石	54	47	(13)	67.45	安山岩	表面光沢のある磨り面 純面ざらつきのある磨り面 被熱	覆土中	
16	磨石	(37)	(40)	(40)	61.06	流紋岩	表面光沢のある磨り面 純面ざらつきのある磨り面 被熱	覆土中	

## 第5号土坑(第19図 PL.2)

位置 調査区のG 3 g7区、標高25 mほどの台地上に位置している。



第19図 第5号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 長径 0.87 m、短径 0.70 m の梢円形で、長径方向は N - 55° - W である。深さは 45cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

**覆土** 遺存状態が悪いため、堆積状況は不明である。

**遺物出土状況** 繩文土器片 51 点 (2,525 g) が出土している。

**所見** 1 ~ 3 は時期幅が見られるが、3 がほぼ完形であることから、本跡の最終時期は安行 3c 式期である。

第 15 表 第 5 号土坑出土遺物一覧 (第 19 図)

番号	種別	器種	口径	覆高	底徑	底土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	漆跡	[188] (221)	-	長石・石英・赤鉄粒子	灰褐色	普通	口縁部 LR 光沢の弧線文と独立した三叉文		覆土中	40% PL 3
2	縄文土器	漆跡	-	(208)	32	長石・石英・赤鉄粒子	にぶい相	普通	漆跡帶上に刷毛、RL 帯消褪文 体部 RL	覆土中	20%
3	縄文土器	漆跡	[150]	203	34	長石・石英・雲母	にぶい相	普通	4 手貝の漁獲口部 漆跡帶刷毛 漆跡・底底部に 2 段の根張痕	覆土中	90% PL 3
4	縄文土器	漆跡	-	-	長石・石英・赤鉄粒子	明赤褐色	普通	漆跡帶貼付・頭部区画文 体部条線		覆土中	
5	縄文土器	漆跡	-	-	長石・石英・雲母	にぶい相	普通	漆跡・経済帶貼付 頭部区画文		覆土中	

第 16 表 縄文時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆土	主な出土遺物	備考	
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)				
1	G3e6	N - 79° - E	梢円形	1.31 × 1.06	79	外傾	平坦	人為 縄文土器、石器	SI 4 → 本跡
2	G3f5	-	円形	1.18 × 1.15	85	外傾	平坦	人為 縄文土器、土製品、石器、石製品	本跡 → SI 4
5	G3g7	N - 55° - W	梢円形	0.87 × 0.70	45	ほぼ直立	平坦	-	縄文土器

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡 1 棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### 第 2 号堅穴建物跡 (第 20・21 図 PL 1)

**位置** 調査区西部の G 3 d8 区、標高 25 m ほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸 8.41 m、短軸 8.38 m の方形で、主軸方向は N - 23° - W である。壁は高さ 18 ~ 36cm で外傾している。

**床** 平坦で、硬化面は確認できなかった。間仕切溝を、西壁から中央に向かって 1 条確認した。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 144cm で、燃焼部幅は 48cm である。両袖部の床面から、土師器の甕 8・9 が出土しており、これらは竈の芯材として転用されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 32cm ほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

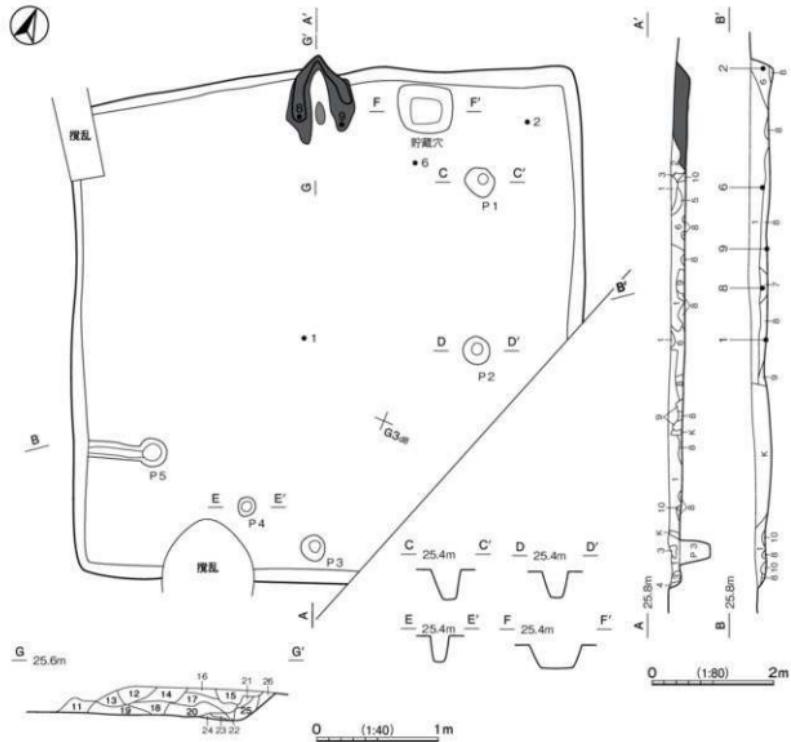
**ピット** 5 か所。P 1・P 2 は深さ 50・40cm で、規模と配置から主柱穴である。P 3 は深さ 50cm で、南壁際中央に位置しており、出入口施設に伴うピットである。P 5 は間仕切りピットである。P 4 は深さ 40cm で性格不明である。

**貯蔵穴** 竈の東側に位置している。長軸 90cm、短軸 80cm の不整長方形で、深さ 40cm である。底面は平坦で、壁は外傾している。覆土の状況は確認できなかった。

**覆土** 26 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。第 11 ~ 26 層は竈に関する覆土である。

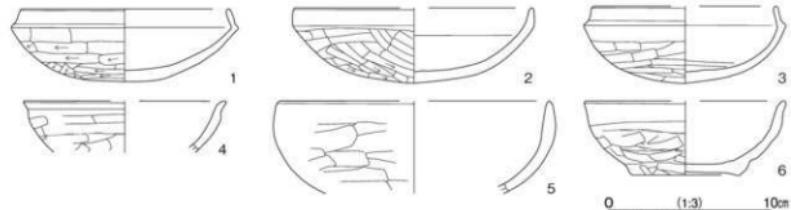
**遺物出土状況** 土師器片 402 点 (坏 12、高坏 1、小型鉢 1、壺 1、壺 384、手捏土器 3)、石器 2 点 (砥石)、鉄滓のはか、混入した縄文土器片、陶器片、土製品、石器、石製品が出土している。1 は中央部床面から、2 は北東コーナ部前、6 は貯蔵穴の南側の覆土中層から、8 は横位で竈の左袖部中、9 は正位で竈の右袖部中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

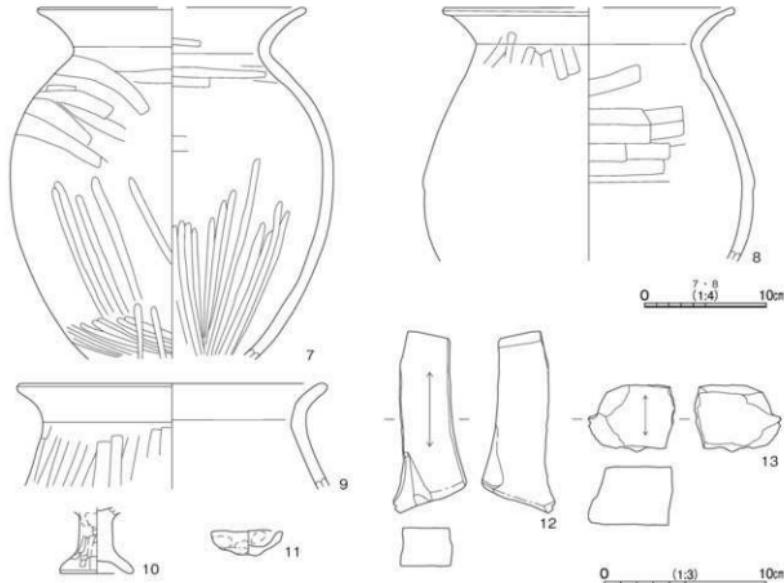


**土層解説**

1 75YR3-2 黒褐	ローム粒 D / 粘土 B、緑 B	14 75YR5-2 黒褐	粘土粒 B / 粘 A、緑 B (電離土)
2 75YR2-2 黒褐	ローム粒 D、粘土粒 D / 粘 A、緑 B	15 9YR5-3 ローム	ローム粒 D、粘土粒 C-C' / 粘 C、緑 B (電離土)
3 75YR4-6 黒	ローム粒 C / 粘 B、緑 C	16 75YR6-1 黒褐	粘土粒 D、粘土粒 B / 粘 A、緑 B (電離土)
4 75YR4/4 黒	ローム粒 C' / 粘 B、緑 B	17 75YR4/1 黒褐	粘土粒 C / 粘 B、緑 B (電離土)
5 75YR3-2 黒褐	ローム粒 D、粘土粒 D / 粘土粒 D / 粘 B、緑 B	18 75YR3/1 黒褐	粘土粒 C、粘土粒 C / 粘 A、緑 B (電離土)
6 75YR4-3 黒褐	ローム粒 C / 粘 B、粘土粒 D	19 75YR4/4 黒褐	粘土粒 C、粘土粒 B / 粘 A、緑 B (電離土)
7 75YR3-2 黒褐	ローム粒 D、粘土粒 D / 粘土粒 D / 粘 B、緑 B	20 75YR4/4 黒褐	粘土粒 C、粘土粒 C / 粘 A、緑 B (電離土)
8 75YR3-2 黒褐	ローム粒 D、粘土粒 D / 粘 B、緑 B	21 75YR5-4 川砂	粘土粒 D / 粘 A、粘土粒 D / 粘 C、緑 C (電離土)
9 75YR3-2 黒褐	ローム粒 D、粘土粒 D / 粘 B、緑 B	22 75YR5-4 川砂	ローム粒 C / 粘 B、緑 B (電離土)
10 75YR3-6 明褐	ローム粒 A / 粘 C、緑 C	23 75YR5-3 川砂	粘土小粒 D / 粘 C、粘 C (電離土)
11 75YR4/1 黒灰	粘土粒 B / 粘 C、緑 B (電離土)	24 75YR4/1 黒灰	粘土粒 C / 粘 B、緑 C (電離土)
12 75YR4/1 黒灰	粘土粒 C / 粘 B、緑 C (電離土)	25 75YR4/2 黒灰	ローム小 D / 粘 C、粘土粒 D / 粘 B、緑 B (電離土)
13 75YR4/1 黒灰	粘土粒 B / 粘土粒 B / 粘 B (電離土)	26 75YR4/2 黒灰	ローム粒 C / 粘 B、緑 B (電離土)



第20図 第2号堅穴建物跡・出土遺物実測図



第21図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第17表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧（第20・21図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎	土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師器	环	12.6	4.5	-	長石・石英・斜長石	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラ原り	内面ナデ	床面 85% PL. 6
2	土師器	环	[14.6]	4.6	-	長石・石英・雲母	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラ原り	内面ナデ	覆土中層 60% PL. 6
3	土師器	环	[11.2]	4.8	-	長石・石英	黒	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面へラナデ	覆土中層 20% PL. 6	
4	土師器	环	[12.4] (3.2)	-	-	長石・石英・斜長石	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラナデ	内面ナデ	確認困難 20% PL. 6
5	土師器	环	[16.6] (5.7)	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラナデ	内面ナデ	確認困難 10%
6	土師器	手打土器	[12.1]	1.6	6.7	長石・石英・斜長石	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラナデ	内面ナデ	覆土中層 40% PL. 6
7	土師器	甕	[21.6] (28.8)	-	-	長石・石英・雲母	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面横へラ原り	普通	PL. 6
8	土師器	甕	[23.6] (20.7)	-	-	長石・石英・斜長石	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	黒芯灰原へラナデ	内面横のハナナデ	左端部中 30%
9	土師器	甕	18.6	(6.5)	-	長石・石英・雲母	灰	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側位のヘラナデ	右端部中 10%	
10	土師器	手打土器	(4.1)	[4.4]	1.4	長石・石英	灰	灰	普通	普通	体部外側ナデ	高環	覆土中 40% PL. 6
11	土師器	手打土器	4.3	1.6	1.4	長石・石英・雲母	灰	灰	普通	普通	体部外側ナデ	高環	覆土中 90% PL. 6
番号	器種	其S	幅	厚さ	重量	材質	質	特徴		出土位置	備考		
12	砥石	11.2	4.5	2.3	178.17	砂岩	砥面1面			覆土中			
13	砥石	4.1	5.3	3.6	131.17	砂岩	砥面1面			覆土中			

### 3 時期不明の遺構と遺物

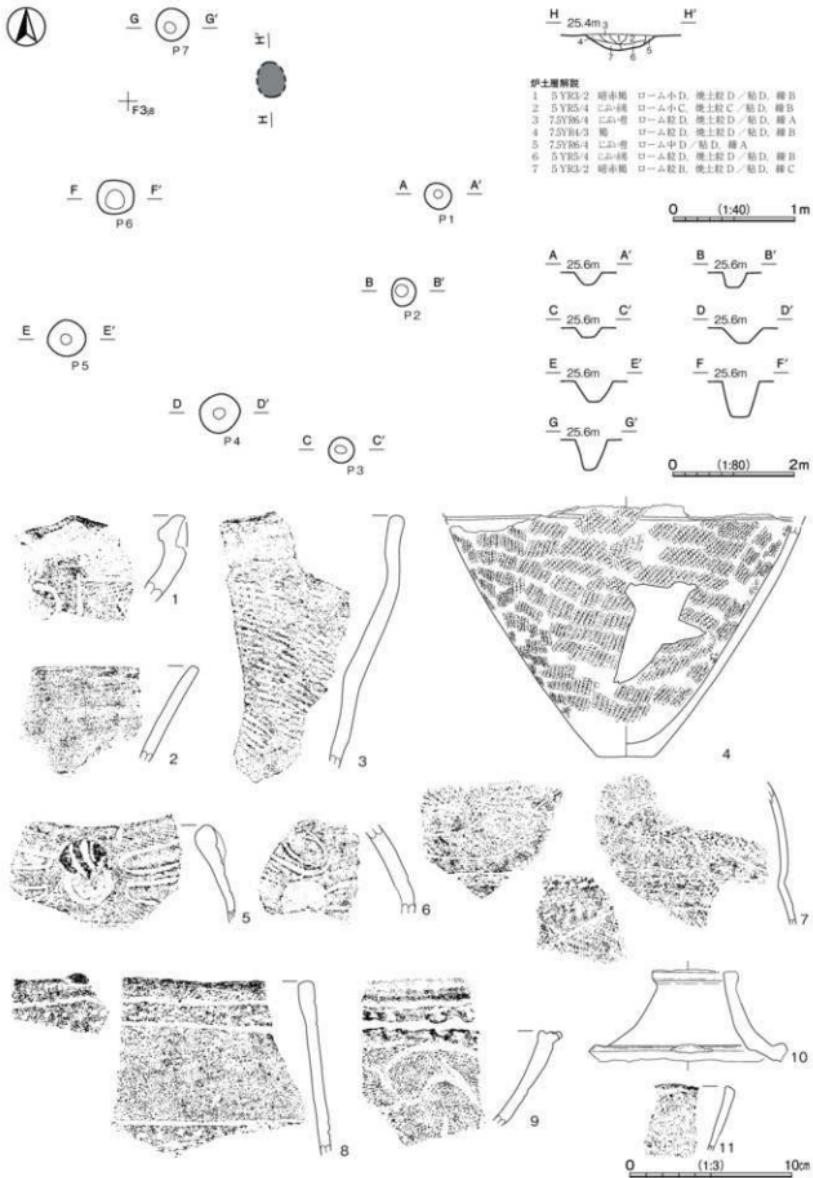
時期不明の遺構は、竪穴建物跡1棟。土坑1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

#### (1) 竪穴建物跡

##### 第1号竪穴建物跡（第22図 PL. 1）

位置 調査区西部のF 3.8区、標高25mほどの台地上に位置している。

規模と形状 前平のため壁、床面、壁溝を確認できなかったが、炉や柱穴と推定されるピットが認められるところから、竪穴建物跡とした。規模と形状は不明である。



第22図 第1号堅穴建物跡・出土遺物実測図

**炉** 北部に付設されている。規模は長径 60cm しか確認できなかった。深さは 18cm の地床炉で、炉床面は地山であり、赤変している。

**ピット** 7か所。P 1～P 7 は深さ 15～58cm で、柱穴の可能性が考えられるが、詳細は不明である。

**遺物出土状況** 繩文土器片 103 点 (2,693 g)、石器 2 点 (網片、石皿)、石製品 1 点 (石剣カ) が出土している。

**所見** 繩文土器片が多く出土しており、縄文時代の堅穴建物跡の可能性もあるが、明確な時期は不明である。

第 18 表 第 1 号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第 22 図)

番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	船	土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	陶器	青灰	普通	縦割 R 光燒	確認面	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	普通	外・内面丁寧な磨き	確認面		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・非晶質	灰陶	普通	縦割	口縁部無文帶 体部無縫 L	確認面	
4	縄文土器	深鉢	-	(15.5)	3.6	長石・石英・非晶質	陶器	青灰	普通	体部 LR 縄文	確認面	30% PL 3
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	明赤陶	普通	口縁部 S 字型の RL 面と帶繩文	縦割い 3 列削込みの縦割付	確認面	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・非晶質	陶器	青灰	普通	無筋 L 光燒	P 3 複土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰灰陶	陶器	縦割 RL 光燒のたすき割け状入り繩文	確認面		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	青灰	普通	口縁部 LRL 光燒のたすき割け状入り繩文	P 7 複土中	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	陶器	青灰	普通	口縁部 LRL 光燒のたすき割け状入り繩文	確認面	
10	縄文土器	甕	-	(5.6)	-	長石・石英・繊維	陶器	青灰	普通	外縁部の付着調査 (特に上面)	確認面	5% PL 3
11	縄文土器	堅穴土器	-	-	-	長石・石英	陶器	普通	口縁部外斜状・外面部リ	内面ナゲ	確認面	

## (2) 土坑

### 第 6 号土坑 (第 11 図)

**位置** 調査区の G 3 h5 区、標高 25 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 5 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 1.05 m、短径 1.03 m の円形である。深さは 41cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

**覆土** 遺存状態が悪いため、堆積状況は不明である。

**所見** 時期・性格は、出土遺物がないため不明である。

## (3) 遺構外出土遺物 (第 23 ～ 26 図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と出土遺物一覧で記述する。

第 19 表 遺構外出土遺物一覧 (1) (第 23 図)

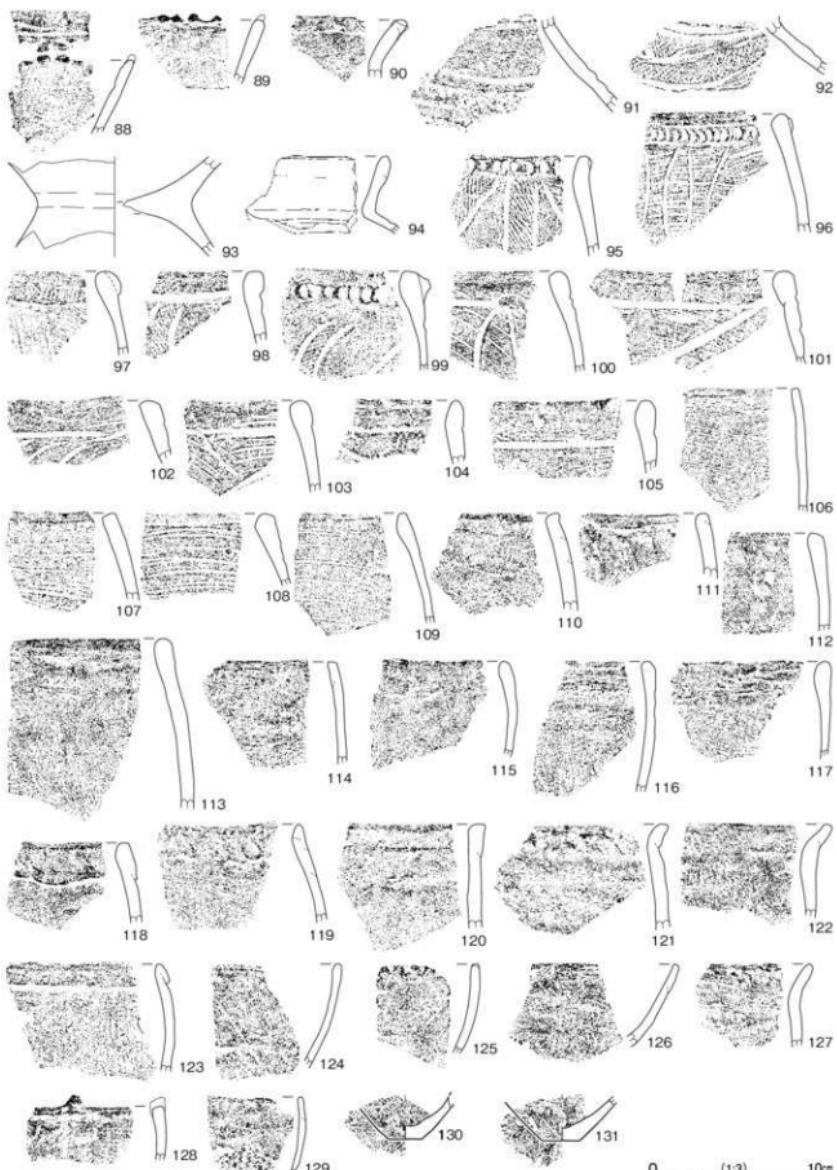
番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	船	土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	青灰	目隠液状	SI 2 4 右 2 x		
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	陶器	青灰	縦割縫帶による棒状文	SI 2 4 右 2 x		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	青灰	縦割 RL 無筋 L 縄文	SI 2 4 右 2 x		
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	陶器	普通	LR 縄文→逆 U 字型の痕消	表土		
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・非晶質	陶器	青灰	口縁部に 2 本の押し引き支 無筋 L 縄文	表土		
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	陶器	青灰	縦割 RL 縄文→逆 U 字型の痕消繩文	表土		
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	普通	RL 縄文→縦割付の軽削沈済 磨消繩文	表土		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	青灰	普通 RL 縄文→沈済間磨消	SI 2 4 右 2 x		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	青灰	口縁部削み 手筋竹管による斜継文	SI 2 4 右 2 x		
10	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	陶器	普通	口縁部液状文による三角形文	表土		
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	陶器	普通	口縁部無文帯 寂れ済沈文のある陰帯	表土		
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	青灰	口縁部外反する心無文帯	SI 2 4 右 2 x		
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鐵・鈎鉛・鉛鉱	陶器	青灰	口縁部無文帯 波浪状に寂れ済沈文のある陰帯	表土		
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	陶器	青灰	縫合帯→RL 縄文→手筋竹管による斜継文	SI 2 4 右 2 x		
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	陶器	青灰	口縁部突起部から鎖状陰帯 無筋 L 縄文	SI 2 4 右 2 x		
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	陶器	青灰	波状 L 縄文	表土		



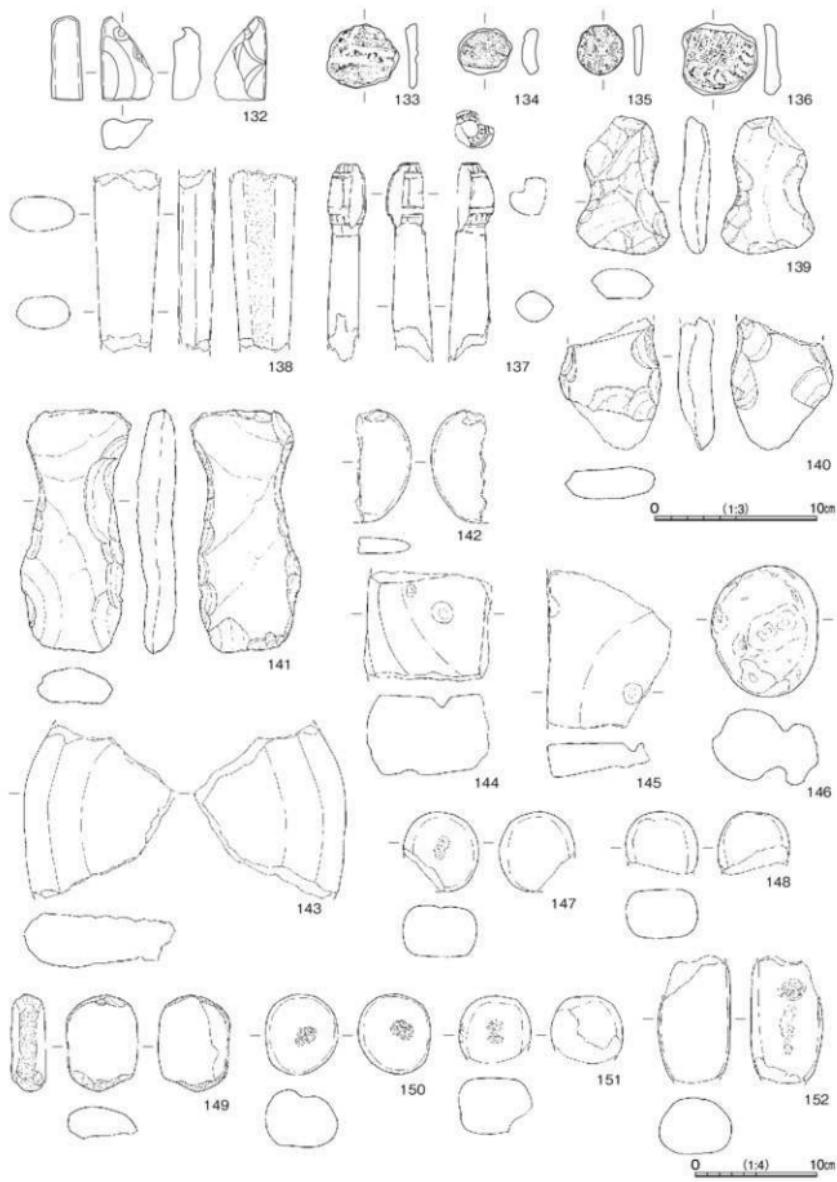
第23図 造構外出土遺物実測図(1)



第24図 遺構外出土遺物実測図（2）



第25図 造構外出土遺物実測図（3）



第26図 遺構外出土遺物実測図(4)

第20表 遺構外出土遺物一覧（2）（第23・24図）

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎	土	色調	焼成	等	蓋	施	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	RL織文→縄文	頭部に縄文	内面に凹線	表土		
18	縄文土器	台付鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	斜面削込み	頭部条線		SI 2 複土中		
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	にぶい・黄青	普通	外・内面前削	口部器・口縁部外・内面に沈継文	SI 2 複土中			
20	縄文土器	壺	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	LR光燒の崩潰縄文	頭部縦條帶	SI 2 複土中			
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	口部器に山形状突起1ヶ所	LR 繩文		表土		
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	にぶい・相	普通	RL 陰起彫縄文	押印痕		表土		
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・角閃石	にぶい・黄青	普通	3段のRL	隆起彫縄文		表土		
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・角閃石	にぶい・相	普通	底面による形状文	押印状の瘤		表土		
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・角閃石	にぶい・相	普通	LR 繩文彫刻	入り組み三叉文		SI 2 複土中		
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	頭部彫形狀の画文と蛇形	SI 2 複土中		表土		
27	縄文土器	鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	口部外	LR 光燒彫文		SI 2 複土中		
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	RL 繩文彫	頭部入り組み文		SI 2 複土中		
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	頭部無筋	RL 光燒のの字文		SI 2 複土中		
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	口部器や突起	頭部RL 光燒の入り組み文		SI 2 複土中		
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	にぶい・黄青	普通	口部器に押印痕	内面に互瓦弧縄文		表土		
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英	にぶい・相	普通	RL 繩文光燒	やや隆起 入り組み三叉文		SI 2 2区2x		
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	にぶい・相	普通	RL 陰起彫縄文	波頂部表面巻き状		表土		
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・黄青	普通	RL 光燒の嵌状起伏彫文			SI 2 2区2x		
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	灰黒	普通	陶器無筋	頭部彫形狀の画文		SI 2 複土中		
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	明赤	普通	RL 陰起彫縄文による三角形区画文			SI 2 2区2x		
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・黄青	普通	口部器に角形	体部入り組み文		SI 2 複土中		
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	浅黄褐	普通	口部器	頭部に神契列	頭部区画文やや隆起	SI 2 複土中		
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	RL 光燒の彫形区画文			SI 2 複土中		
40	縄文土器	鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	浅黄褐	普通	RL 光燒三叉文	体部RL 繩文		SI 2 複土中		
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	波頂部・体部斜削付文	口部斜削付文	口部差異差し光焼の彫形区画文	SI 2 複土中		
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	灰黄褐	普通	波頂部	口部区画文	内面突起	SI 2 複土中		
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	波頂部	頭部に筋状凹凸		SI 2 複土中		
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	多段の縄文	RL 繩文光燒		SI 2 複土中		
45	縄文土器	鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	S字状	充填のS字状入り組み文		SI 2 3区1x		
46	縄文土器	鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	鐵城	波頂部	S字状入り組み文	SI 2 複土中		
47	縄文土器	鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	鐵城	波頂部	口部斜削付文	SI 2 複土中		
48	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	鐵城	波頂部	B突起 外・内面ナデ	SI 2 複土中		
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	多段の波頂部	頭部に無筋	RL 光燒彫文	SI 2 複土中		
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	無筋	の字彫文		表土		
51	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英	黑褐	普通	鐵城	口部斜削	口部内面区画文あり	SI 2 複土中		
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	無筋	無筋	S字状入り組み文	SI 2 複土中		
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	無筋	口部斜削	体部に斜削文	SI 2 複土中		
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	にぶい・相	普通	薄口部小孔状	内面に沈継	頭部引根状の彫刻波線文	SI 2 複土中		
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	多段の網状波線文			SI 2 4区2x		
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	無筋	縦縫文		SI 2 複土中		
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・粘土	にぶい・相	普通	體部斜削	口部光燒	内面ナデ	SI 2 2区1x		
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	本1単位の光焼	による凹向弧縄文と彫形区画文		SI 2 複土中		
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	本1単位による	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・黄青	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
64	縄文土器	壺	-	-	-	陶石・石英	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	表土		
65	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・粘土	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 2区1x		
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・粘土	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	表土		
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	にぶい・黄青	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
73	縄文土器	広口壺	-	-	-	陶石・石英	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
74	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中	PL. 5	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
77	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
78	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
79	縄文土器	台付鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 2区2x		
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
81	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
82	縄文土器	壺	-	-	-	陶石・石英	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		
84	縄文土器	浅鉢	-	-	-	陶石・石英・赤色粒子	相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 2区2x		
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 2区1x		
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	陶石・石英・雲母	にぶい・相	普通	凹向	凹向	凹向弧縄文	SI 2 複土中		

第21表 遺構外出土遺物一覧(3)(第24~26図)

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
87	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	露光焼のC字文	SI 2 収土中	
88	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	口縁部に「木芽花」の瓦子口縁部に「木芽花」の瓦子	SI 2 収土中	
89	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	口縁部に「木芽花」の瓦子	SI 2 収土中	
90	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	口縁部押印・口縁部外反	SI 2 2 R 2 x	
91	陶文土器	甕	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	露光 瓜式二溝間の截歯 ナデ	SI 2 2 R 2 x	
92	陶文土器	甕	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 充滿の雲霧文々	SI 2 収土中	
93	陶文土器	台付鉢	(6.2)	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	露光 鉢・台部 外面ナデ 脱部内面焼き	SI 2 収土中	5%
94	陶文土器	甕	(4.8)	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	口縁部外側脱部の崩削	SI 2 収土中	5%
95	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	口縁部に植毛 瓜部LR充満磨消区文	表土	
96	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・継縫付・区撰文	表土	
97	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・継縫付・区撰文	SI 2 収土中	
98	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	棕褐色	普通	口縁部厚・頭部LR充満磨消区文	SI 2 収土中	
99	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 四周に裂隙による区撰文	表土	
100	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・口縁部・頭部区撰文 脱部区撰文に瘤貼付	SI 2 収土中	
101	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	露光 条件・口縁部4文字 PI01-103と同一ヶ	SI 2 収土中	
102	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・口縁部4文字 PI01-103と同一ヶ	SI 2 収土中	
103	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・口縁部4文字 PI01-103と同一ヶ	SI 2 2 R 2 x	
104	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	棕褐色	普通	露光 北洋による焼成文	表土	
105	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 頭部条脱・沈脱	SI 2 収土中	
106	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	露光 頭部横位の条報	SI 2 収土中	
107	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 頭部横位の条報	SI 2 2 R 2 x	
108	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 頭部横位の条報	SI 2 収土中	
109	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・口縁部4文字 PI01-102と同一ヶ	SI 2 2 R 2 x	
110	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・口縁部4文字 PI01-102と同一ヶ	SI 2 2 R 2 x	
111	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 条件・口縁部4文字 PI01-102と同一ヶ	SI 2 2 R 2 x	
112	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	棕褐色	普通	露光 外側縫合の内面ナデ	表土	
113	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 外側縫合の内面ナデ	表土	
114	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	棕褐色	普通	露光 外側縫合の内面ナデ	SI 2 収土中	
115	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 外側縫合の内面ナデ	表土	
116	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱・体部縫合の割り 内面ナデ	SI 2 収土中	
117	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱・体部縫合の割り 内面ナデ	SI 2 収土中	
118	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部外縫合 内面ナデ 口縁部に粘土のまぐれあり	表土	
119	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	棕褐色	普通	露光 口縁部外縫合の内面ナデ	表土	
120	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部外縫合の内面ナデ	SI 2 2 R 2 x	
121	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	露光 口縁部外縫合の内面ナデ	SI 2 収土中	
122	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部外縫合の内面ナデ	SI 2 収土中	
123	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部外縫合の内面ナデ	SI 2 2 R 2 x	
124	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部外縫合の内面ナデ	表土	
125	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱・外・内面ナデ	SI 2 収土中	
126	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・石英	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱・外・内面ナデ	SI 2 収土中	
127	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱の割り 内面ナデ	表土	
128	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱の割り 内面ナデ	SI 2 収土中	
129	陶文土器	製土器	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱の割り 外面ナデ 接合痕	SI 2 収土中	
130	陶文土器	製土器	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱の割り 底部ナデ	SI 2 1 R 2 x	
131	陶文土器	製土器	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	棕褐色	普通	露光 口縁部機柱の割り 底部木葉痕	SI 2 2 R 2 x	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考	
132	土瓶	51	32	1.9	28.09	長石・石英・雲母	棕褐色	表面に露光文	左上に未穿孔穴1か所 テレホ	表土	
133	土瓶	40	4.4	0.7	12.84	長石・石英・雲母	灰褐色	安山岩3 A式深溝体部片利脱	周縁打ち欠き	SI 2 1 R 2 x	
134	土瓶	28	3.3	0.9	10.66	長石・石英・雲母	棕褐色	浅窓口縁部片利脱	裏面に沈透文 周縁打ち欠き	表土	
135	土瓶	31	2.8	0.6	6.15	長石・石英・雲母	棕褐色	露光	周縁部片利脱 周縁打ち欠き	表土	
136	土瓶	44	4.6	1.0	22.56	長石・石英	棕褐色	露光	周縁部片利脱 周縁打ち欠き	表土	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考	
137	石劍	(12.1)	(2.9)	(2.3)	824	粘板岩	暗褐色	頭部に「工」字文	被熱	表土	PL 6
138	石劍	(11.2)	(4.0)	(2.2)	1785	粘板岩	暗褐色	裏面に加工跡の横打痕	被熱	表土	PL 6
139	打製石斧	8.4	5.4	1.8	96.58	安山岩	暗褐色	分鋼型 括れ部曲面状に敲打	被熱	表土	PL 6
140	打製石斧	(8.2)	(6.3)	(2.2)	126.13	流紋岩	暗褐色	分鋼型 括れ部曲面状に敲打	被熱	表土	PL 6
141	打製石斧	19.8	9.0	3.2	705.84	泥岩	暗褐色	扇形に近い形状 括れ弱い	被熱	表土	PL 6
142	石鍤	(9.2)	(4.6)	1.3	90.57	安山岩	暗褐色	上部に打ち欠き	被熱	表土	PL 6
143	石鍤	(14.1)	(12.3)	4.4	840.65	安山岩	暗褐色	表面に磨り面	SI 2 1 R 2 x	PL 6	
144	石鍤	(9.0)	(10.5)	6.6	725.93	安山岩	暗褐色	表面に磨り面	SI 2 1 R 2 x	PL 6	
145	石鍤	(12.9)	(10.2)	2.7	554.54	雲母片岩	暗褐色	表面に磨り面	表面に磨り面	表土	PL 6
146	門石	106	87	6.2	302.2	粗粒	表面は一部分のみ凹凸感 裏面のくぼみは自然	表面に磨り面	表面に磨り面	表土	PL 6
147	門石	(6.6)	(6.2)	4.2	223.2	安山岩	表面に磨り面	表面に磨り面	表面に磨り面	表土	PL 6
148	磨石	(5.2)	5.9	4.0	166.54	安山岩	表面に磨り面	表面に磨り面	表面に磨り面	表土	PL 6
149	敲石	7.9	5.8	2.8	21.10	凝灰岩	青白石の軽度風化	下部に研磨傷	接合痕	表土	PL 6
150	四石	6.6	5.9	4.7	247.97	安山岩	表面に磨り面	表面に磨り面	表面に磨り面	SI 2 1 R 2 x	PL 6
151	四石	(5.5)	5.9	4.5	1913.16	安山岩	表面に磨り面	表面に磨り面	表面に磨り面	SI 2 1 R 2 x	PL 6
152	四石	(10.4)	6.0	4.6	417.7	安山岩	表面に磨り面	表面に磨り面	表面に磨り面	表土	PL 6

## 第4節 総括

今回の調査では、竪穴建物跡6棟（縄文時代4・古墳時代1・時期不明1）、土坑4基（縄文時代3・時期不明1）を確認し、縄文時代中期から晩期と古墳時代中期の集落跡であることが分かった。また、表土から出土した1点であるが、関西系の土器片（第24図75）を確認した。出土した縄文土器の量から、当該期の遺物包含層の存在が想定できる。層位ごとの分布は示すことはできないが、その範囲や土器の型式、出土量等の状況を提示することで、その可能性に迫りたい。

調査区中央部で黒色がかった堆積土が確認され、G 3j2～H 3a5にかけてトレンチ掘削を行ったが、遺物の出土は少量で埋没谷と判断した。しかし、この埋没谷より北側の調査区では、表土の出土遺物や遺構に混入した遺物として、多量の縄文土器片が出土しており、遺物包含層が存在する可能性がある。

以下の集計表に、出土した縄文土器は、すべての土器について以下のように分類し、各遺構や表土採集におけるその出土量はgで、点数は（）内に示す。（注：集計は遺構に属するものを除いている）

第1群（加曾利E式）、第2群（称名寺式）、第3群（堀之内式）、第4群（加曾利B式）、第5群（曾谷式）、第6群（安行1・2式）、第7群（安行3a・3b式）、第8群（安行3c・3d式）、第9群（前浦式）、第10群（大洞B・BC式）、第11群（大洞C1・C2式）、第12群（後期土器：縄文、無文、条線、付点組線文、紐線文）、第13群（晩期土器：紐線文、条線文、付帯口縁、無文）、第14群（製塙土器）、第15群（型式判断不能）とした。

第22表 遺構・縄文土器分類別の出土量とその点数一覧

	1群	2群	3群	4群	5群	6群	7群	8群	9群	10群	11群	12群	13群	14群	15群
第1号竪穴建物跡 (時期不明)	1089 (3)	1966 (2)	171 (2)	-	-	2373 (7)	1305 (3)	2367 (3)	-	-	2477 (2)	882 (4)	1316 (7)	98 (1)	12887 (70)
第2号竪穴建物跡 (古墳時代)	1297 (31)	403 (2)	2988 (17)	3614 (7)	-	12806 (53)	17201 (71)	22838 (72)	2733 (6)	503 (3)	4732 (20)	5058 (23)	66630 (348)	386 (2)	164107 (883)
第3号竪穴建物跡 (加曾利E II式期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2884 (14)
第4号竪穴建物跡 (安行3c～3d式期)	10664 (48)	4473 (16)	24271 (76)	2362 (10)	767 (4)	4514 (26)	17439 (86)	-	3103 (9)	1725 (6)	3892 (15)	5352 (28)	37406 (70)	1091 (8)	342496 (192)
第1号土坑 (安行3c～3d式期)	1284 (2)	-	740 (3)	508 (4)	-	149 (2)	1803 (9)	-	225 (1)	-	2129 (5)	633 (3)	10454 (40)	373 (3)	39901 (201)
第2号土坑 (加曾利E III式期)	-	-	308 (1)	-	-	-	-	305 (1)	-	-	-	440 (2)	2864 (15)	270 (2)	8940 (57)
第5号竪穴建物跡 (奥之内式期)	25684 (92)	14020 (55)	4817 (6)	-	-	34 (1)	192 (1)	2120 (3)	-	-	273 (2)	173317 (568)	1362 (9)	-	219 (3)
第6号竪穴建物跡 (加曾利E III式期)	1477 (2)	692 (2)	312 (2)	-	-	487 (1)	887 (3)	-	-	-	-	1129 (4)	-	-	6429 (24)
第5号土坑 (安行3c式期)	1104 (4)	-	800 (4)	366 (2)	-	2907 (4)	-	-	-	4614 (1)	-	2120 (7)	2705 (3)	-	3192 (25)
表土	13854 (37)	1552 (7)	9528 (35)	1014 (4)	279 (2)	4006 (18)	4688 (19)	2847 (9)	611 (3)	226 (1)	85 (1)	5357 (13)	12212 (46)	110 (1)	70266 (388)

上の表と遺構全体図（第3図）から、第3・6号竪穴建物跡の周辺を中心として、堆積土に当該期の加曾利E式土器片が含まれ始め、縄文時代の後期は第5号竪穴建物跡、晩期は第2号竪穴建物跡を中心とした地点で、土器片が含まれていることが分かった。遺物を廃棄した地点は時期ごとに変化している。

写 真 図 版





遺構確認状況（北西から）



テストピット 土層断面



第1号竪穴建物跡 炉



第2号竪穴建物跡 窯



第2号竪穴建物跡



第3号竪穴建物跡



第4号竪穴建物跡 遺物出土状況（1）



第4号竪穴建物跡 遺物出土状況（2）

PL2



第4号竖穴建物跡 遺物出土状況（3）



第4号竖穴建物跡 遺物出土状況（4）



第4号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡 遺物出土状況



第5号竖穴建物跡



第1号土坑



第5号土坑 遺物出土状況



埋没谷 堆積状況



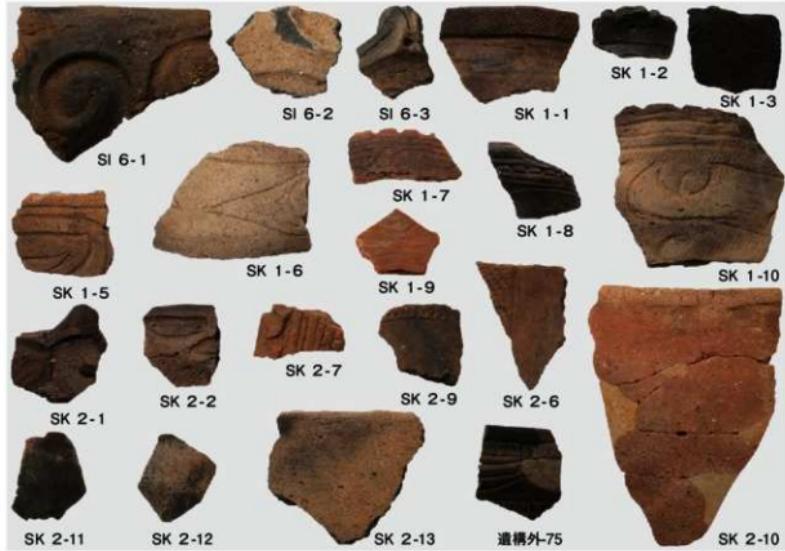
第1·4·5号竖穴建物跡、第5号土坑出土土器



第3·4号竖穴建物跡出土土器



第5号竖穴建物跡出土土器



第6号竪穴建物跡、第1・2土坑、遺構外出土土器



第4・5竪穴建物跡出土土製品・石器・石製品



第2号竪穴建物跡出土土器、遺構外出土石器・石製品

## 抄 錄

## 印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 10 Pro  
編集 Adobe InDesign 2020  
図版作成 Adobe Illustrator 2020  
写真調整 Adobe Photoshop 2020  
Scanning EPSON ES-G11000  
使用Font OpenType リュウミンPro L-KL, 太ゴB101 Pro Bold  
見出ミンMA31 Pro, 太ミンA101 Pro Bold  
中ゴシックBBB Pro Medium  
写 真 線数 カラー210線以上  
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign 2020 でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第457集

下妻市

### 中居指遺跡

鬼怒川改修事業地内  
埋蔵文化財調査報告書

令和4（2022）年3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
HP <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社高野高速印刷  
〒310-0035 水戸市東原2-8-1  
TEL 029-231-0989